

ふくい しあわせ UP！スポーツプラン

スポーツでひろがる“しあわせ実感ふくい” 2025 ▶ 2029

(案)

令和7年〇月

福井県

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨	2
2 計画の期間	2
3 計画の位置づけ	2
4 本計画における SDGs 達成目標	3

第2章 これまでの取組みとスポーツを取り巻く現状・課題

1 本県におけるこれまでのスポーツ政策	5
(1) これまでの計画の経緯	
(2) これまでの計画（改定版）の取組みと総括	
2 本県のスポーツ振興を取り巻く現状と課題	12

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念	25
2 4つの基本方針	25
3 目指す姿	26
4 スポーツの価値	28
5 本計画におけるスポーツの範囲	28
6 本計画における e スポーツの位置づけ	29

第4章 具体的な施策の展開

1 基本方針1 全世代の日常にスポーツを	31
(1) 県民総スポーツの機会づくり	
(2) スポーツを通じた共生社会の実現	
(3) スポーツによる健康づくりの推進	
(4) 子どものスポーツ活動の充実・豊かな心と健やかな体の育成	
(5) 働き盛り子育て世代・女性のスポーツ機会の創出	
(6) シニア世代のスポーツ活動の充実	
(7) パラスポーツの普及拡大	
2 基本方針2 チームふくいでアスリートの頂点へ	40
(1) ジュニア世代の発掘・育成・強化	
(2) トップアスリートの競技活動支援・U I ターン推進	
(3) 持続可能な指導体制の構築	
(4) クリーンでフェアなスポーツの推進	
(5) スポーツ医・科学サポートの積極的活用	
(6) トップパラアスリートの発掘・育成・強化	

第4章 具体的な施策の展開

3 基本方針3 スポーツでワクワクドキドキを.....	47
(1) 地域スポーツコミッションを軸とした福井ならではの スポーツツーリズムの推進	
(2) 全国規模の大会・イベント、スポーツ合宿誘致活動の強化	
(3) イベント企画・広報などの伴走支援	
(4) ランナー満足度全国トップクラスの「ふくい桜マラソン」の開催	
(5) FUKUI RAYS の活躍応援	
(6) トップアスリートを活用した交流推進	
4 基本方針4 スポーツの魅力をもっと身近へ.....	54
(1) スポーツを支える組織や体制の充実	
(2) スポーツ指導者の養成と質の向上	
(3) スポーツボランティア活動の推進	
(4) デジタル技術を活用したスポーツ活動の推進	
(5) e スポーツの普及拡大	
(6) スポーツ施設の長寿命化と利活用	

第5章 計画の推進

1 目標達成の指標	62
2 推進体制.....	63
3 進行管理.....	63

資料編

参考資料1 社会情勢の変化・国の動向	66
参考資料2 スポーツに関する県民意識調査（R5）結果概要.....	71
参考資料3 福井県スポーツ推進審議会委員名簿.....	81
参考資料4 計画策定までの経緯	82

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

本県では、平成25年7月に策定した福井県スポーツ推進計画に基づき、「運動好きな子どもたちが元気に輝ける福井」、「県民の誰もがスポーツを楽しめる福井」、「国内外で活躍できるトップアスリートが育つ福井」を目指し、平成25年度から平成30年度までを第1次計画推進期間として設定し、様々な施策を展開してきました。平成30年度には「福井しあわせ元気国体（第73回国民体育大会）」・「福井しあわせ元気大会（第18回全国障害者スポーツ大会）」を開催し、全国で初めて国体と障スポの融合を掲げ、スポーツを通じた新たな交流が生まれました。福井国体・障スポのレガシー（県民のスポーツへの関心の高まり・スポーツ施設の充実・競技力の向上等）を活かし、さらなるスポーツ振興やスポーツを通じた交流人口の拡大につなげるため、令和元年度に、計画の一部を改定し、令和元年度から令和6年度までを第2次計画推進期間として設定し様々な施策を展開してきたところです。

本県では、令和6年3月に北陸新幹線の福井・敦賀が開業するとともに、令和8年以降には中部縦貫自動車道の県内全線開通を控えるなど、高速交通ネットワークの整備が進むことにより、新しい往来が生まれ、チャレンジの舞台が広がる「ふくい新時代の幕開け」を迎えています。“ふくい新時代”において、「福井県長期ビジョン」が掲げる「自信と誇りのふくい、誰もが主役のふくい、飛躍するふくい」の実現を目指し、スポーツを通じて県民誰もが夢や感動を共有し、健康で豊かな人生を送れるよう、スポーツの力を最大限活用して県民の幸せの向上を進めます。

本計画は、本県の今後のスポーツ振興の方向性および具体的施策等を取りまとめ、スポーツの力を通じて、県民一人ひとりの生活や心がより豊かになる「ウェルビーイング¹」の実現を目指します。

2 計画の期間

本計画の対象期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間とします。福井県スポーツ推進計画の第2次推進期間が令和6年度で終期を迎えるため、これまでの理念を継承しつつ、本県の取り巻く現状および国の第3期スポーツ基本計画を踏まえて、本計画を第2期福井県スポーツ推進計画とします。

なお、社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて本計画の内容を見直します。

3 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条第1項に規定された「地方スポーツ推進計画」であるとともに、県政運営の基本となる「福井県長期ビジョン」の分野別計画に位置付けるものです。

¹ ウェルビーイング（Well-being）：well（よい）と being（状態）からなる言葉。厚生労働省は「個人の権利や自己実現が保証され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念」としている。

4 本計画における SDGs 達成目標

本県は、令和3年5月、「次世代に選ばれる『しあわせ先進モデルふくい』の実現」をテーマとし、内閣府の「SDGs²未来都市」に選定されました。本県独自の SDGs 活動コンセプトを『未来のために。～次の世代に選ばれる福井へ～』に設定し、未来を担う次の世代に福井の良さを継承するとともに、自分らしくチャレンジできる地域社会の実現に向けて、SDGs の理念に基づく具体的なアクションに取り組んでいます。

SDGs は経済、社会など包括的な地域課題の解決に貢献する考え方であり、スポーツ分野でもこれらの課題の解決に資することができるため、本計画では、スポーツを通じた SDGs への貢献を目指します。本計画で特に目指すべき達成目標としては以下のとおりです。



² SDGs (Sustainable Development Goals) : 2015 年 9 月に国連で採択された、先進国を含む 2030 年までの国際社会全体の持続可能な開発目標のこと。17 のゴール（目標）とその下位目標である 169 のターゲットから構成される。

第2章

これまでの取組みと
スポーツを取り巻く現状・課題

1 本県におけるこれまでのスポーツ政策

(1) これまでの計画の経緯

■第1期福井県スポーツ推進計画の計画推進期間

スポーツ基本法（H23.6）に基づき、県民がそれぞれのライフステージに応じてスポーツに親しむことができる環境を整えるための計画として第1期福井県スポーツ推進計画を策定（H25.7）し、施策を展開してきました。第1次推進期間が平成25年度から平成30年度の6年間、第2次推進期間（改定版）が令和元年度から令和6年度の6年間です。

第1次推進期間【6年間】H25～H30

第2次推進期間【6年間】R1～R6

■目指す姿

第1期福井県スポーツ推進計画	
目指す姿 1	県民の誰もがスポーツを楽しめる福井
目指す姿 2	運動好きな子どもたちが元気に輝ける福井
目指す姿 3	国内外で活躍できるトップアスリートが育つ福井

■第2次推進期間（改定版）の考え方

国体・障スポのレガシー（県民のスポーツへの関心の高まり・スポーツ施設の充実・競技力の向上等）を活かし、さらなるスポーツ振興やスポーツを通じた交流人口の拡大につなげるため、3つの基本施策（①1県民1スポーツ、②子どもの体育・スポーツ活動、③トップアスリートの養成）に新たな取組みを追加し、施策の目標指標を、国の第2期スポーツ基本計画（H29.3）を踏まえ設定・見直しました。

■福井県長期ビジョン

令和2年度に福井県長期ビジョン（R2.7）が策定され、実行プランにおいて「スポーツを活かした交流拡大」が重点施策に位置付けられ、取組みを強化してきました。これを受けて、福井県スポーツまちづくり推進機構（地域スポーツコミッション）が設立され、地域スポーツコミッションによる全国大会・イベントの誘致、県内外から人を呼び込む大会の開催など、訪れる人も県民も楽しみ合える「エンタメ福井」の実現を目指して取組みを強化してきたところです。

(2) これまでの計画（改定版）の取組みと総括

基本施策

I

1 県民1スポーツ

基本施策Ⅰでは、ライフステージに応じ、スポーツを気軽に楽しめる福井を目指し、成人の週1回以上のスポーツ実施率と総合型地域スポーツクラブ会員数を目標に掲げて施策を進めてきました。

【具体的施策】

(1) 「する」・「みる」・「ささえる」スポーツに親しむ環境づくり

- ・「県民スポーツ祭」やスポーツ・文化体験交流イベント「スポカル FUKUI」の開催
- ・総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）に対する支援 など

(2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

- ・企業研修や地域イベント、商業施設等における出前講座・体験会の開催
- ・ニュースポーツ³などの普及拡大への支援 など

(3) ユニバーサルスポーツ⁴の推進

- ・障がい者アスリートの育成、競技力向上の支援
- ・障がいの有無、世代を超えた交流イベントの開催 など

(4) スポーツボランティアの活性化

- ・スポーツボランティアバンクの設置
- ・スポーツボランティア研修会の開催 など

(5) スポーツ交流の推進

- ・全国規模のスポーツ大会やスポーツイベントの開催を支援
- ・県民応援チーム「FUKUI RAYS⁵」の魅力発信、応援機運の醸成 など



スポカル FUKUI2024 での子ども向けフェンシング教室



障がい者スポーツの出前講座を小学校で実施

³ ニュースポーツ：20世紀後半以降に新しく考案された、競い合うことよりも誰もが楽しめることを重視するスポーツ

⁴ ユニバーサルスポーツ：子どもから高齢者まで、また障がいの有無に関係なく誰もが一緒に楽しめるスポーツ

⁵ FUKUI RAYS：プロ・プロ化を目指すチームや全国規模のトップリーグで活躍する県内6つのスポーツチームを、県民が一体となって応援し、また県内のスポーツを盛り上げるチームのこと。福井ブローウィングス、福井永平寺ブルーサンダー、福井ユナイテッドFC、福井丸岡 RUCK、ヴェルコスタ福井、福井工業大学男子ホッケー部の6チームを指す。

【目標達成状況】

ア 成人の週1回以上のスポーツ実施率

成人が週1回以上スポーツを実施した割合は、令和5年度は61.0%となっており、令和元年度（54.8%）と比べて6.2%向上しました。計画改定版に示した施策により、一定の成果を達成したと考えられますが、計画において設定した目標値（65%）に届いていないため、引き続き、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を促進するための機会の創出やスポーツ機運の醸成を進める必要があります。

なお、計画改定版で設定したスポーツ実施率の指標は、スポーツ庁が毎年実施している体力・運動能力調査の結果を基に算出しています。

イ 総合型地域スポーツクラブ会員数

総合型クラブの質的充実を図るため、令和4年度から(公財)日本スポーツ協会による「総合型クラブ登録・認証制度」がスタートし、本県では、15市町の25クラブ（令和5年度）が登録しています。また、会員数は、令和5年度は6,777人となっています。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため行動制限や活動自粛が強いられたため、令和2年度には6,009人まで減少しました。目標値との乖離はありますが、中学部活動地域移行等、地域クラブのニーズは高まっており、質の高いクラブづくりを進める必要があります。

<達成状況>

項目	目標値 R6	実績値					目標達成率 (実績値/目標値)
		R1	R2	R3	R4	R5	
成人週1回以上スポーツ実施率 (体力・運動能力調査:スポーツ庁)	65%	54.8	56.0	66.5 (参考値)	54.8	61.0	概ね順調 93.8%
総合型地域スポーツクラブ会員数	7,500人	6,635	6,009	6,246	6,274	6,777	概ね順調 90.4%

【主な成果】

- ・ふくい桜マラソン 2024 や日本スポーツマスターズ 2023 福井大会等の大規模スポーツイベントにおける参加者数目標達成（ふくい桜マラソン出走者 13,657 人、マスターズ参加選手 7,542 人）
- ・本県初のプロバスケットボールクラブ、福井ブローウィングズの誕生などによるスポーツ観戦者の増加（徳島ガンバロウズ戦 R6.4.28：セーレン・ドリームアリーナ（福井県営体育館）過去最高 3,965 人達成） など

【主な課題】

- ・働き盛り子育て世代・女性のスポーツ参加推進
- ・パラスポーツの普及やパラアスリートの発掘育成
- ・スポーツを通じた健康・生きがいづくりの推進
- ・FUKUIRAYS の認知度・集客力の向上 など

< 県民の声（現場でトーク） >

- ・ 特別支援学校や医療機関との連携によるパラアスリートの発掘（パラスポーツ指導者）
- ・ 親子で一緒に楽しく体を動かす機会づくり（子育て世代の親）
- ・ 地域コミュニティを活用した健康・機会づくり（高齢者） など

【総括】

- ・ 県民全体のスポーツ実施率は増加しているものの、働き盛り子育て世代・女性のスポーツ実施率は低迷しているため、重点的に働きかける必要があります。
- ・ スポーツを通じた共生社会のさらなる実現を目指し、重点的に取り組む必要があります。
- ・ スポーツによるエンタメ福井の実現に向けて、スポーツによる地域活性化や交流人口の拡大につながる施策を重点的に展開する必要があります。

基本施策

II

子どもの体育・スポーツ活動

基本施策Ⅱでは、全国トップクラスの体力をさらに伸ばし、心も体も健康で、積極的に運動・スポーツに親しむことができる子どもを育む福井を目指してきました。目標として「運動やスポーツをすることが好きな子ども」の割合と「1日の運動実施時間が1時間以上の子ども」の割合を高めることを掲げて、施策を進めてきました。

【具体的施策】**（1）学校体育の充実**

- ・ 指導の充実を図るため水泳の授業や小学校低学年の体育授業に指導者を派遣
- ・ 体育実技の指導力向上を図るための実技指導者研修会を開催 など

（2）地域の協力を得た運動部活動の推進

- ・ 地域の指導者の資質向上を図るための指導者研修会を開催
- ・ 休日運動部活動を段階的に地域に移行し、中学生のスポーツ活動の機会確保 など



水泳補助指導者派遣(学校体育)

【目標達成状況】**ア 運動やスポーツをすることが好きな子ども**

運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合は目標値が小学 93%、中学 89%に対して、令和5年度は小学生 91.1%、中学生 84.9%となっています。新型コロナウイルス感染症等の影響により、保健体育科の授業や運動部活動において十分な運動を実施できなかったことが考えられます。新型コロナウイルス感染症が5類移行されたことで、今後、保健体育科の授業改善、運動部活動の充実等、児童・生徒が運動やスポーツをすることの楽しさや喜びを味わうことができるよう進めていく必要があります。

イ 1日の運動実施時間が1時間以上の子ども

令和5年度の1日の運動実施時間が1時間以上の子どもの割合は、小学生 43.4% (39.0%)、中学生 71.6% (67.7%) となっており、全国平均と比べるとやや高いものの、本県の前年度と比べると低下しました。さらに小学生においては、1日の運動実施時間が10分未満の児童は、男子 8.3% (9%)、女子 12.9% (16.3%) という結果でした。子どもたちが自ら進んで運動に親しむ習慣を身に付けることができるような取組みをさらに進めていく必要があります。※()内の数値は全国平均

<達成状況>

項目	対象	目標値 R6	実績値(%)					目標達成率 (実績値/目標値)
			R1	R2	R3	R4	R5	
運動やスポーツをすることが好きな子ども	小学生	93%	91.7	中止	86.7	90.4	91.1	概ね順調 98.0%
	中学生	89%	87.8		84.5	85.4	84.9	概ね順調 95.4%
1日の運動実施時間が1時間以上の子ども	小学生	78%	(45.2)		(42.0)	(43.5)	(43.4)	—
	中学生	82%	(75.5)		(74.5)	(73.9)	(71.6)	—

※全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、H25より当該質問の回答様式が変更となったため、()内の数値は参考値となる。

【主な成果】

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査にて、過去5年間、3位以内をキープ（小学校5年生女子は14年連続1位）など

対象	H30	R1	R2	R3	R4	R5
小学5年男	2位	1位	中止	2位	1位	1位
小学5年女	1位	1位		1位	1位	1位
中学2年男	1位	2位		3位	1位	2位
中学2年女	1位	1位		1位	2位	2位

【主な課題】

- ・児童・生徒の1週間の総運動時間が減少傾向
 - ・市町行政や競技団体、地域スポーツクラブなどと連携した中学校部活動地域移行 など
- <県民の声（現場でトーク）>
- ・児童・生徒が自ら運動に親しむ機会の創出（教員）
 - ・市町における部活動地域移行の進捗状況の差異（市町）
 - ・部活動の地域移行により生じる受益者負担への財政支援（総合型クラブ）など

【総括】

- ・児童・生徒の総運動時間が減少傾向にあるため、児童・生徒が主体的に運動に親しむ環境づくりを継続的に進める必要があります。
- ・持続可能な形で生徒のスポーツ活動の充実を図るため、学校と地域スポーツクラブなどが連携を強化し、部活動地域移行を継続的に推進する必要があります。

基本施策



トップアスリートの養成

基本施策Ⅲでは、福井国体・障スポの成功を機に、県民に夢や希望を与える、国際大会などで活躍する選手を育む福井を目指してきました。目標として「競技スポーツ全国大会での上位入賞者数」と「公認スポーツ指導者新規登録数」を掲げて、施策を進めてきました。

【具体的施策】

(1) 選手を育成強化する体制づくり

- ・ トップアスリートを目指す子どもを対象に育成プログラムを提供
- ・ 「スポジョブふくい⁶」の活動促進やアスリートのUターンを推進 など

(2) 指導者の育成と確保

- ・ 中央競技団体等より優秀な指導者を招聘し指導実践や指導者講習会を実施
- ・ 意欲のある若手指導者を対象とした資質向上研修会等の開催 など

(3) 競技力向上のための環境づくり

- ・ 福井県スポーツ医・科学委員会の各部会（S-Dr⁷、S-Dent⁸、AT⁹、S-栄養士¹⁰、S-心理士¹¹、S-Ph¹²、S-科学者¹³、S-指導者¹⁴）による選手サポート
- ・ 活躍が見込まれる競技について計画的に競技用備品を整備 など



子どもを対象としたふくいジュニアアスリートアカデミー



国民スポーツ大会に参加する福井県選手団

⁶ スポジョブふくい：国民スポーツ大会有力選手が県内企業に就職できるよう支援するシステム（無料職業紹介所）のこと。

⁷ S-Dr（スポーツドクター）：日本スポーツ協会公認スポーツドクター、日本整形外科学会認定スポーツドクター、日本医師会スポーツ医、これら3種のスポーツドクターで、医・科学委員会の部会員として本県選手の医科学サポートに協力する者

⁸ S-Dent（スポーツデンティスト）：日本スポーツ協会公認スポーツデンティストを有している歯科医師

⁹ AT（アスレティックトレーナー）：①AT/PT（AT＜日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー＞）でPT（理学療法士）、②県認定APT（福井県認定アスレティックトレーナー、PTで県スポーツ医・科学委員会が実施する既定の講習会・実践を経た県認定の資格者）、APT（①②の総称）

¹⁰ S-栄養士（スポーツ栄養士）：①管理栄養士で日本スポーツ協会と日本栄養士会の共同認定資格の公認スポーツ栄養士、②管理栄養士で県スポーツ医・科学委員会が実施する既定の講習会・実践を経た県認定の資格者

¹¹ S-心理士（スポーツ心理士）：①県認定S-心理士（公認心理士で県スポーツ医・科学委員会が実施する既定の講習会・実践を経た県認定の資格者）②日本スポーツ心理学会認定スポーツメンタルトレーニング指導士

¹² S-Ph（スポーツファーマシスト）：薬剤師でJADA（日本アンチ・ドーピング機構）の認定資格（Web講習）

¹³ S-科学者（スポーツ科学者）：大学のスポーツ関係教官、大学院生で運動生理学の研究を行っている者

¹⁴ S-指導者（スポーツ指導者）：日本スポーツ協会のスポーツ指導者とスポーツ行政に関わる者

【目標達成状況】

ア 競技スポーツ全国大会での上位入賞者数（1～3位）

福井国体に向けて補強、強化したアスリートの活躍等もあり、令和2年度以降も100件を超える好成績を収めています。今後も引き続き、ジュニア世代の発掘・育成から成年までの強化サイクルに取り組みながら、競技ごとの実情に合わせて、部活動以外でも活動できる環境を整備し、今後も100件を超える成績をあげていきます。

イ 公認スポーツ指導者新規登録数

競技力向上の維持のためには、より高いレベルの指導力が求められます。資格保有者の高齢化により、各競技団体が指導力不足に陥らないよう、公認指導者資格の取得を促しています。

また今後、部活動の指導がクラブチーム等へ移り地域移行が進むと、さらに指導者の確保や指導者の指導力向上のために公認資格を取得することが必要になります。スポーツ少年団指導者制度の改定に伴い、令和4年度と5年度は、(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格への移行者および新規登録者が追加され、公認スポーツ指導者新規登録者数は増加しました。

<達成状況>

項目	目標値 R6	実績値					目標達成率 (実績値/目標値)
		R1	R2	R3	R4	R5	
競技スポーツ全国大会上位入賞数 (1～3位)	100件/年 を維持	196	130	188	200	249	達成 249.0%
公認スポーツ指導者 新規登録者数※	100名	45	94	90	154 ※350	176 ※451	達成 176.0%

※ スポーツ少年団指導者制度の改定に伴う(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格への移行者および新規登録者を含めた人数

【主な成果】

- ・ 福井国体後も天皇杯 10 位台をキープ
(福井国体 1 位、茨城国体 10 位、栃木国体 18 位、鹿児島国体 14 位、佐賀国スポ 18 位)
- ・ 公認スポーツ指導者新規登録者数の増加 など

【主な課題】

- ・ ジュニアから成年まで各世代での選手発掘・育成、継続的な強化サイクルの構築
- ・ アスリートが就職後も競技活動を継続できる企業への U I ターン就職の支援および競技活動への支援
- ・ 公認スポーツ指導者の資質向上 など

<県民の声（現場でトーク）>

- ・ 競技人口、指導者の減少が課題（市町スポーツクラブ）
- ・ 継続的に競技活動に取り組める環境の確保（競技団体） など

【総括】

- ・ 人口 100 万人未満の県において地元国体後も天皇杯 10 位台をキープしている県は本県のみであり、引き続き競技力向上を大きな基本方針の 1 つに位置づけ、中長期的な視点で、選手確保・育成・強化サイクルへの支援を継続する必要があります。

2 本県のスポーツ振興を取り巻く現状と課題

①ライフスタイルに応じた多様なスポーツの機会創出

ア スポーツ実施率

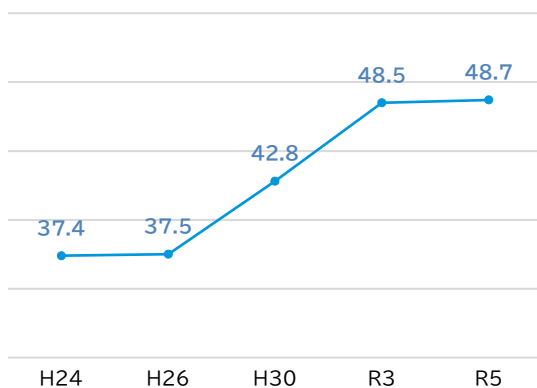
本県が独自に実施しているスポーツに関する県民意識調査（以下、県民意識調査）によると、平成24年度以降、成人の週1回以上のスポーツ実施率は着実に上昇しています。

しかし、世代別では働き盛り子育て世代の実施率が低い状況にあり、特に30代の女性の低さが顕著になっています。また、30代の約90%の方が運動不足を感じていることが調査結果から判明しています。

40代以上では男性より女性の方が実施率として高い数値を示しているため、子育て中の女性にとってはスポーツ活動に取り組む上でのハードルが非常に高い状況にあることが調査結果から分析できます。働き盛り子育て世代、特に子育て中の女性がスポーツ活動に取り組みやすい機会づくりが喫緊の課題だと考えられます。

なお、本調査の測定は、人口分布および県内年齢構成に基づき無作為抽出により行っており、ランダムに選ばれた標本を調べることで効率的に全体の特徴を推定することが可能となっています。

20歳以上の週1回以上のスポーツ実施率(%)



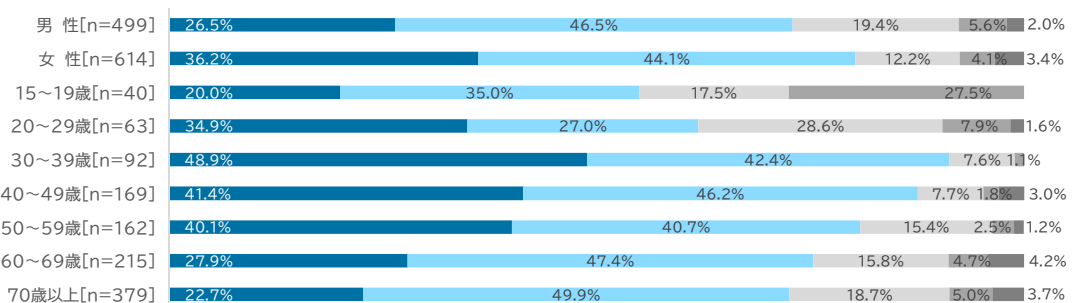
出典：スポーツに関する県民意識調査(福井県)

世代別・性別の週1回以上のスポーツ実施率(%)

	全体	男性	女性
20歳以上	48.7	46.5	50.7
20～29歳	44.4	54.5	28.6
30～39歳	29.3	48.8	13.7
40～49歳	41.9	39.7	43.8
50～59歳	47.4	46.4	48.3
60～69歳	55.7	44.4	67.0
70歳以上	54.1	49.0	59.1

出典：R5 スポーツに関する県民意識調査(福井県)

あなたは普段運動不足を感じますか(性別・年代別)



出典：R5 スポーツに関する県民意識調査(福井県)

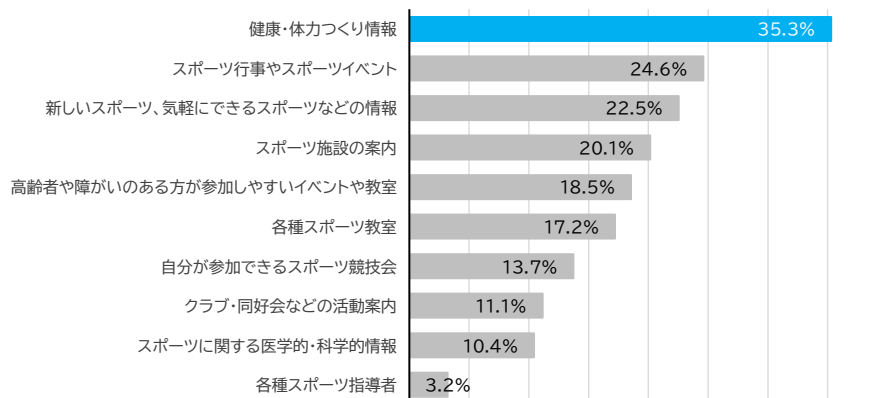
※スポーツに関する県民意識調査（R5）の概要

- 調査目的：スポーツ振興策を企画立案するための基礎資料とするため、県民のスポーツに関する実態や意識などを集計・分析する
- 調査対象：福井県在住者の満15歳以上の男女（2,000人）
- 回収数：1,122人（回収率56.1%）
- 調査期間：令和5年10月～11月
- 選定方法：人口分布および県内年齢構成に基づき全17市町より無作為抽出
- 調査方法：郵送により無記名調査票を送付し、郵送またはWEBにより回収

イ 運動やスポーツに関する情報のニーズ

運動やスポーツに関する情報のニーズについては、「健康・体力づくり情報」が最も高く、年代が上がるごとに、その割合が高くなっています。年代により求めるニーズの傾向も異なるため、ライフスタイルに応じたスポーツ機会の提供や情報の発信が重要です。

運動やスポーツに関する情報のニーズ（20歳以上）



運動やスポーツに関する情報のニーズ（年代別）

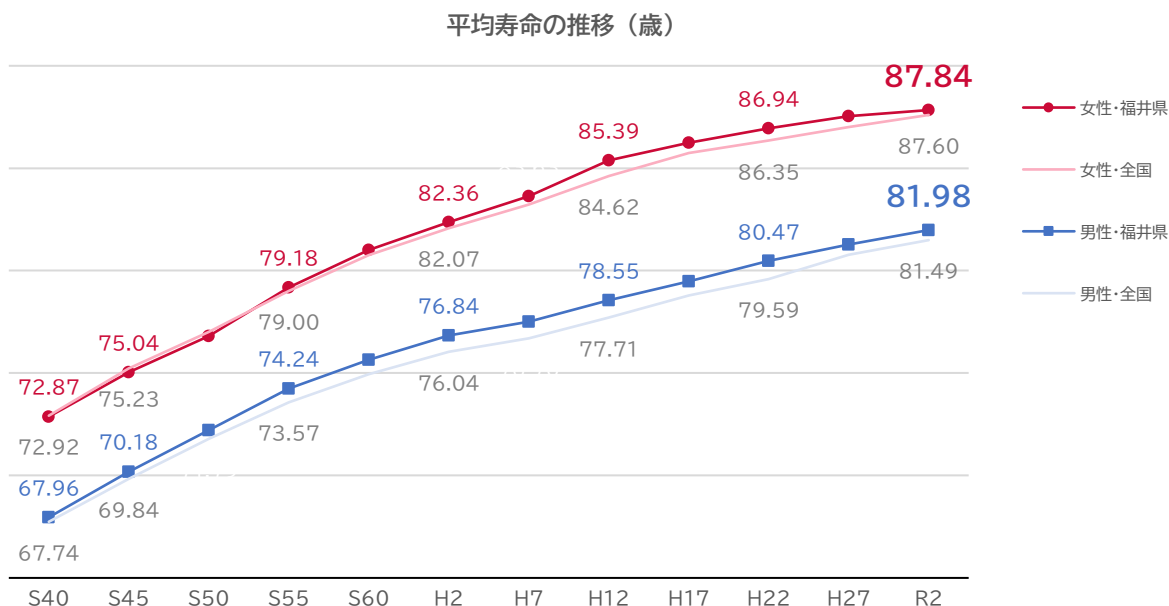
年齢	健康・体力づくり情報	スポーツ行事やスポーツイベント	新しいスポーツ、気軽にできるスポーツなどの情報
15～19歳	7.5%	27.5%	17.5%
20～29歳	9.5%	34.9%	30.2%
30～39歳	17.4%	37.0%	20.7%
40～49歳	22.5%	33.7%	24.3%
50～59歳	42.6%	33.3%	19.1%
60～69歳	42.8%	24.2%	27.0%
70歳以上	45.1%	12.1%	20.6%

出典：R5 スポーツに関する県民意識調査（福井県）

②スポーツを通した健康づくりの推進（健康寿命の延伸）

ア 平均寿命

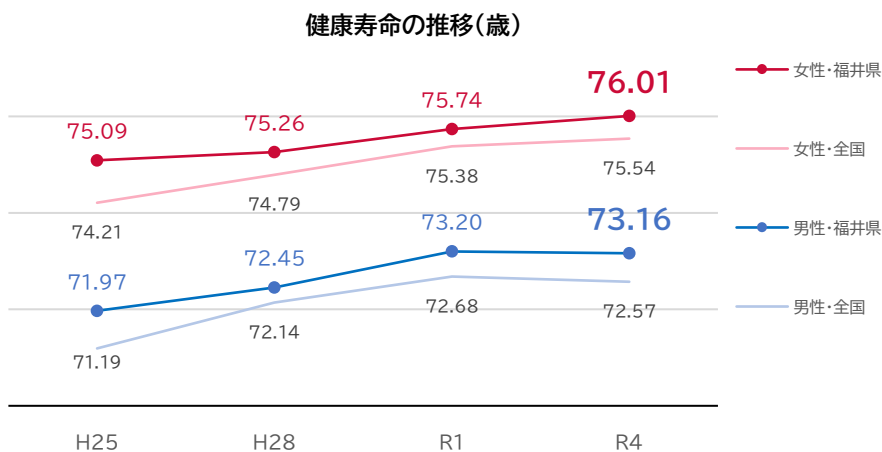
本県の平均寿命（0歳時における平均余命）は、令和2年では、男性が81.98歳（全国7位）、女性が87.84歳（全国19位）となっており、全国平均を上回るレベルを維持しています。



出典：都道府県生命表

イ 健康寿命

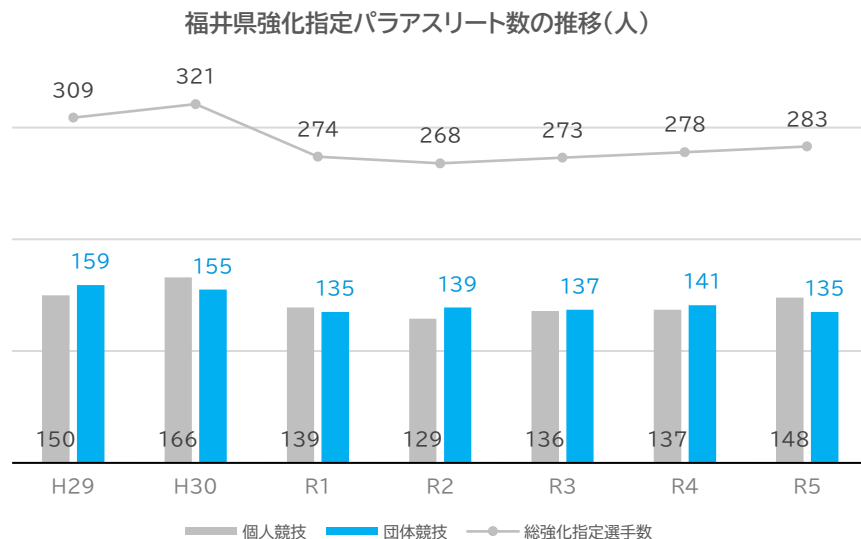
健康寿命とは、日常活動動作が自立している期間の平均を表す指標で、国では、国民生活基礎調査等から健康寿命を算出しており、令和4年の本県の健康寿命は男性が73.16歳（全国8位）、女性が76.01歳（全国7位）であり、男女とも延伸傾向にあります。健康志向の高まりや幸福感の変化など価値観の多様化を背景に、より多くの県民が健康増進に向けた運動の習慣づくりやスポーツ活動を通した生きがいがいづくりなどに積極的に取り組めるような環境づくりの推進がさらに必要です。



※厚生労働省が国民生活基礎調査等から算出

③障がい者のスポーツ活動

平成30年に開催された「福井しあわせ元気大会(第18回全国障害者スポーツ大会)」をピークにパラアスリート数は減少しており、若年層を中心に新たな選手発掘や育成・強化が急務となっています。特別支援学校等の教育機関との連携が不可欠であるため、教育委員会とさらに密接に連携・協働を図っていく必要があります。



※しあわせ福井スポーツ協会調べ

また、指導者やボランティアとしてパラスポーツを支える人材の育成も重要です。(公財)日本パラスポーツ協会公認のパラスポーツ指導員の数を増やすとともに、指導員のスキルアップを図る必要があります。

県内パラスポーツ指導員数

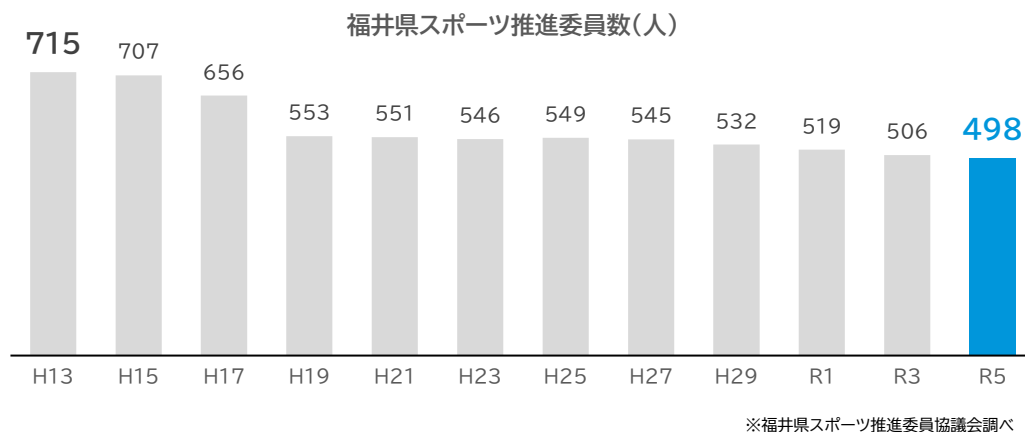
級	H30	R1	R2	R3	R4	R5
初級	168	170	143	176	173	155
中級	87	77	71	68	60	57
上級	2	2	2	3	4	4
指導員合計	257	249	216	247	237	216

※しあわせ福井スポーツ協会調べ

④スポーツ環境

ア スポーツ推進委員

平成15年を機に市町村の合併が進み、同時にスポーツ推進委員の定数の削減により、委員数は減少しています。また、それ以降も地域の若手の人材確保が難しく年々減少傾向にあります。

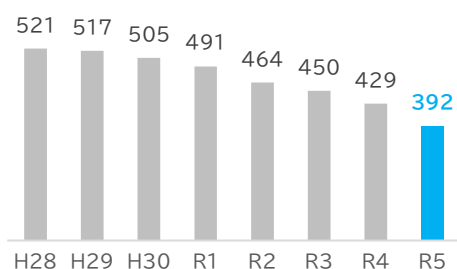


イ スポーツ少年団

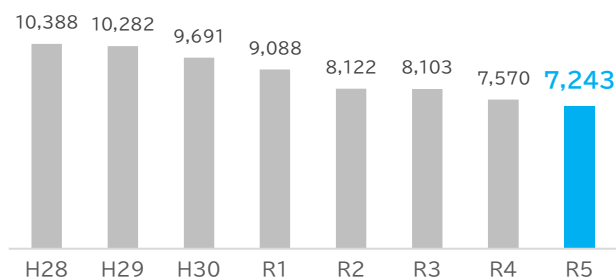
県内のスポーツ少年団の登録団数、団員数、指導者数ともに減少傾向が続いています。

スポーツ少年団では、子どもたちはスポーツを楽しみ、野外活動、レクリエーション活動、社会活動などを通じて協調性や創造性を養い、社会のルール等を学びます。今後、中学部活動の地域移行の受け皿を担うなど、地域スポーツを構成する組織としてスポーツ少年団の育成に努める必要があります。

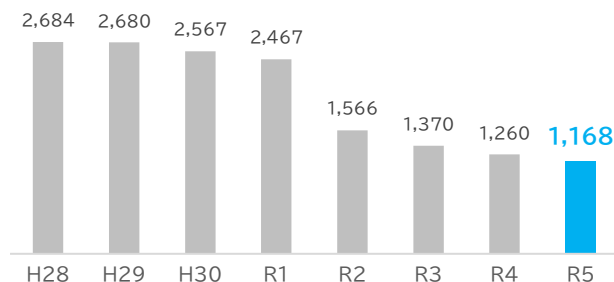
スポーツ少年団登録状況(団数)



スポーツ少年団登録状況(団員数)



スポーツ少年団登録状況(指導者数)



出典：(公財)日本スポーツ協会「スポーツ少年団登録数一覧」を基に福井県作成

ウ 総合型地域スポーツクラブ

総合型クラブの創設・運営の支援を目的に平成16年度に総合型クラブ福井県連絡協議会が設立され、各総合型クラブの活動を支援してきました。

県内15市町に27クラブ（令和5年度）が設立されており、小学生から高齢者まで幅広い世代、約7,000人の会員が活動しています。一方で、クラブ運営者の高齢化や後継者不足、指導者不足などの課題が存在しています。

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
設置市町数	14	13	13	13	14	14	14	15	15	15	15
クラブ数	24	23	25	26	27	27	27	27	28	27	27
登録認証制度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25
クラブ員数(人)	11,634	7,999	8,768	7,414	6,897	6,619	6,635	6,009	6,246	6,274	6,777

※福井県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会調べ

エ スポーツ情報の提供

スポーツイベント情報、施設情報、大会・合宿支援情報など、県、市町、団体がそれぞれ情報を発信しており、県内外の利用者にとって情報にアクセスしにくい状況になっていました。このため、スポーツに関する情報を一つに集約・発信できるよう令和2年10月からスポーツ情報ポータルサイト「F.sports!」の運用を始めました。

今後、より一層、県民がスポーツ情報にアクセスしやすくなるよう、「F.sports!」をハブとした情報発信を強化する必要があります。

オ 天候不順によるスポーツ（屋外活動）や運動習慣への影響

総務省統計局「統計でみる都道府県のすがた 2024」によると福井県の年間降水日数は167日で全国3位となっています。大学の研究¹⁵によれば、雨の日は歩数が減るとの指摘があり、天候不順によって歩行などの屋外運動習慣が阻害される傾向にあります。本県では雨の日が多いため、特に冬季は、屋外でのスポーツ・運動が制限されて活動できないケースが多くあります。そのため、屋内施設で歩く、自宅で簡単に体を動かすなど、天候に左右されない運動機会の創出が必要です。

2024年 年間降水日数(日)		
1位	新潟県	171
2位	富山県	169
3位	福井県	167

出典：総務省統計局 統計でみる都道府県のすがた

¹⁵ 歩行の習慣づけにむけた歩数と外的要因の関係性の分析（2017年・立命館大学ほか）

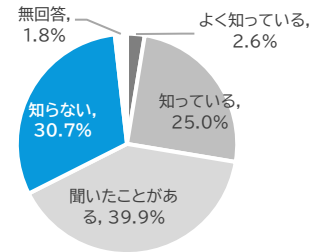
⑤「みる」・「ささえる」スポーツの定着

ア FUKUIRAYS

ふくい県民応援チーム「FUKUIRAYS（フクイレイズ）」の認知度について、県民意識調査の結果によると、約3割の県民が知らないと回答しており、チームの活動内容を含め、認知度向上や集客力の向上が課題です。

一方で、プロバスケットボールクラブの福井ブルーウィンズが B3 リーグ初年度でホーム戦全勝優勝・B2 リーグ昇格を果たすなど、新たなスポーツによる旋風を起こしており、会場には多くの県民が観戦に訪れ、スポーツを応援する文化が福井にも根付き始めています。このスポーツによる大きな盛り上がりを本県スポーツ全体へと波及させ、さらなるスポーツ応援文化の醸成を図る必要があります。

「FUKUIRAYS」の認知度



出典：R5 スポーツに関する県民意識調査(福井県)



ふくい県民応援チーム

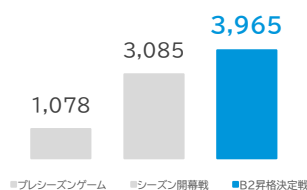
プロ・プロ化を目指すチームや全国規模のトップリーグで活躍する県内チームで県民が一体となって応援し、また県民のスポーツ活動を応援するチーム

福井ブルーウィンズ
(バスケットボール)福井永平寺ブルーサンダー
(ハンドボール)福井ユナイテッドFC
(サッカー)福井丸岡RUCK
(フットサル)ヴェルコスタ福井
(ホッケー)福井工業大学男子ホッケー部
(ホッケー)

イ スポーツ観戦

みるスポーツは迫力あるプレーと緊張感溢れる展開により楽しみと興奮を感じるとともに、ファン同士の交流や、チームへの応援を通じてコミュニティが形成されます。また、観戦することで興味を持ち、スポーツを始めるきっかけとなるほか、県内外から多くの人を呼び込むことができるため、観光や地域経済の活性化にも貢献します。

先述した福井ブルーウィンズは、B2 昇格を決めたプレーオフ準決勝において、ホーム戦で過去最多の 3,965 人の観客数を記録し、チームスタッフ、選手、観客が一体となり、逆転勝利を収めました。みるスポーツが福井に新たな文化として今後ますます定着するように、各チーム、企業、競技団体、市町等と連携を図り、地元チームを応援する環境づくりを促進する必要があります。

2023-2024シーズン福井ブルーウィンズ
観客動員数の推移

※福井ブルーウィンズ調べ



福井ブルーウィンズ試合

ウ スポーツボランティア

スポーツ大会の運営には、一緒に大会を支え、盛り上げるスポーツボランティアが不可欠です。令和5年9月に開催された「日本スポーツマスターズ2023 福井大会」や令和6年3月に初開催された「ふくい桜マラソン2024」では、多くのボランティアの方々に出場選手の受付、会場誘導など様々な分野で協力をいただきました。（ふくい桜マラソン2024では、約3,300人ものボランティアが参加）。

一方で、スポーツボランティアは、50代～70代が70%以上を占めており、若者世代への浸透が弱く、各スポーツ大会・イベントにおいて必要なボランティア数が十分確保できない課題もあります。

⑥スポーツを通じた交流と地域活性化

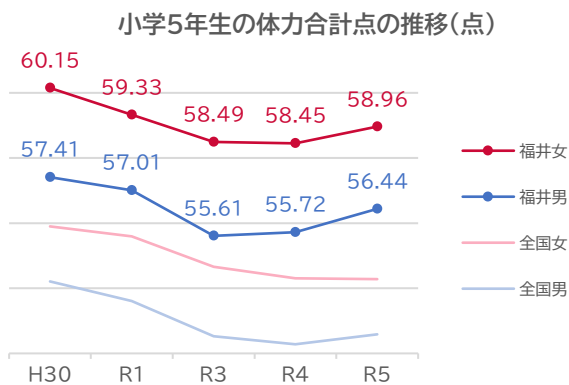
スポーツ大会やイベントの開催において、広報力が弱いため集客数が伸び悩むといった課題もあります。

今後、スポーツを通じた地域の資源や特色を生かした地域活性化・スポーツツーリズムを進めていくため、スポーツコミッションの組織体制強化を図り、開催に向けた伴走支援を行うとともに、地域に根差した大会やイベントを運営する地域人材や、SNSなどを用いた効果的な集客や企画立案に携わる人材の育成を進める必要があります。

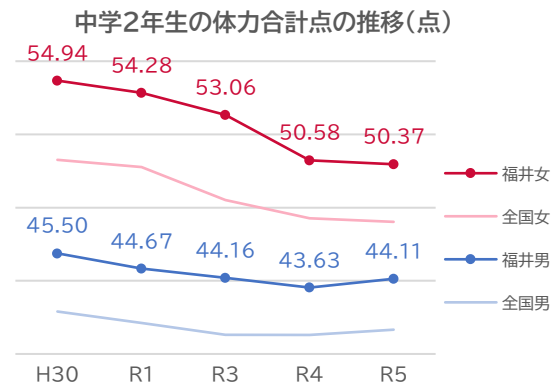
⑦児童・生徒の体育的活動

ア 子どもの体力の推移

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、本県の小学5年生男女は全国1位（女子においては14年連続1位）、中学2年生男女は全国2位と高い水準を維持しています。



全国順位	H30	R1	R3	R4	R5
小5男	2	1	2	1	1
小5女	1	1	1	1	1

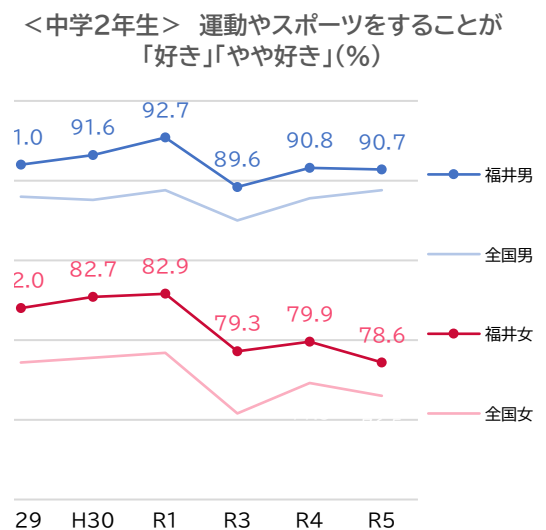
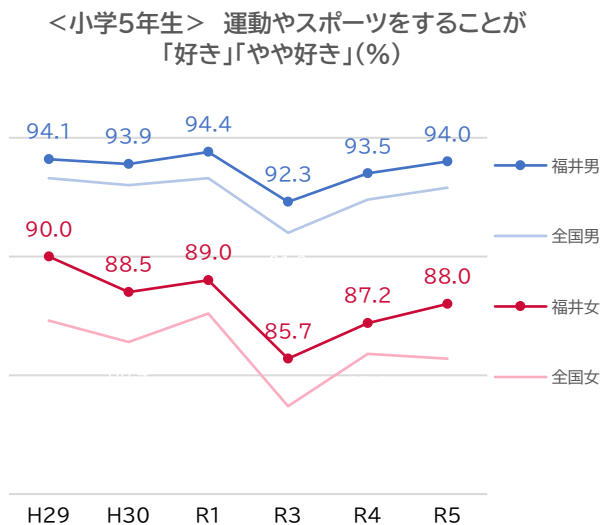


全国順位	H30	R1	R3	R4	R5
中2男	1	2	3	1	2
中2女	1	1	1	2	2

出典：R5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)

イ 運動・スポーツが好きな子どもの推移

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、運動やスポーツをすることが「好き」「やや好き」と答えた児童・生徒の割合は、コロナ禍で様々な運動が制限された令和2年に低下したものの全国平均と比較して高い傾向にあります。

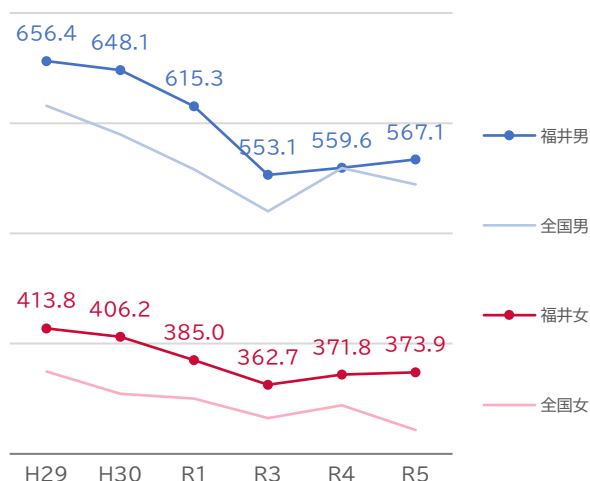


出典：R5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)

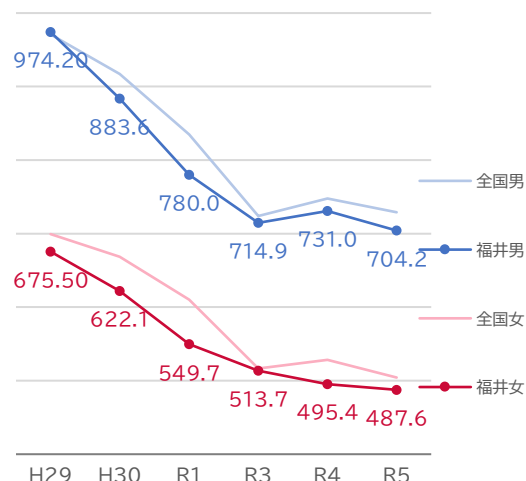
ウ 1週間の総運動時間の推移

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、1週間の総運動時間は、小中学生ともに平成29年度をピークに減少傾向にあり、運動部活動の時間短縮やコロナ禍による運動制限等が要因であると考えられます。

<小学5年生>1週間の総運動時間の推移(分)



<中学2年生>1週間の総運動時間の推移(分)



出典: R5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)

エ 中学校部活動の地域移行

中学校の部活動は、これまで生徒がスポーツ・文化芸術に親しむ身近な場所として自主的に参加し、体力や技能の向上のほか、異年齢との交流の中で人間関係の構築、また、責任感・連帯感の涵養に資するなど、教育的意義を有する活動として長年実施されてきました。

一方で、少子化に伴う生徒数の減少により、これまでの部活動の体制を維持することが一層、困難になっていることや、教員の負担等も背景になっているため、抜本的な部活動改革が必要となっています。

こうした状況の中、持続可能な形で子どものスポーツ・文化芸術活動の充実を図るため、県は国の方針に基づき、令和5年度から休日部活動の段階的な地域移行を推進しています。中学校部活動の地域移行は、地域によって状況や課題が異なるため、市町の実情に応じて進めていく必要があります。

⑧競技スポーツ

ア 福井ゆかり選手の国際大会・国民スポーツ大会成績

パリオリンピック・パラリンピックでは本県ゆかりの選手が7名出場し、体操やフェンシング、パラ陸上でメダルを獲得するなど、世界最高峰の舞台で輝かしい活躍を果たしました。また、国民スポーツ大会では福井国体後も天皇杯10位台をキープするなど、高い競技力を維持しています。

一方で、少子化の進行によりローイングやホッケーなどの本県お家芸競技において、選手が不足するなどの課題もあります。

順位	H29 愛媛	H30 福井	R1 茨城	R2	R3	R4 栃木	R5 鹿児島	R6 佐賀	人口(万人)
1	東京	福井	茨城	中止	中止	東京	東京	東京	1,391
2	愛媛	東京	東京			栃木	鹿児島	佐賀	80
3	埼玉	大阪	愛知			埼玉	大阪	埼玉	737
4	大阪	埼玉	埼玉			愛知	愛知	大阪	877
5	神奈川	千葉	神奈川			大阪	埼玉	愛知	750
6	愛知	愛知	大阪			神奈川	神奈川	神奈川	920
7	福井	神奈川	千葉			千葉	福岡	京都	248
8	千葉	福岡	京都			福岡	千葉	滋賀	141
9	福岡	北海道	北海道			北海道	京都	千葉	631
10	北海道	兵庫	福井			京都	兵庫	岐阜	196
11	京都	岡山	福岡			兵庫	佐賀	北海道	509
12	兵庫	愛媛	岡山			三重	北海道	兵庫	542
13	岐阜	長野	兵庫			岐阜	岐阜	福岡	509
14	岩手	岐阜	三重			鹿児島	福井	三重	175
15	広島	京都	鹿児島			長野	三重	岡山	185
16	岡山	茨城	長野			岡山	栃木	愛媛	131
17	静岡	鹿児島	静岡			静岡	滋賀	長野	202
18	長野	広島	栃木			福井	大分	福井	75
19	奈良	静岡	岐阜			茨城	静岡	広島	275

※福井県スポーツ課調べ

イ 公認スポーツ指導者資格取得者数の推移

公認スポーツ指導者においては、資格保有者の高齢化が進んでおり、各競技団体の指導者不足が懸念されています。また、スポーツ指導の現場において、指導者から選手に対する暴力・暴言・ハラスメントのほか、不適切な指導かどうかの判断が難しい事例も増えてきています。高い競技力維持のためには、よりレベルの高い指導力が求められ、また、中学校部活動の地域移行が進む中で、質の高い指導者が求められます。

ジュニア（小・中学生）から成年までの各世代において、選手の発掘・育成、強化を進めるためには、優秀な指導者の確保が不可欠です。今後の資格取得に当たってはコンプライアンス（法令順守）の推進や体罰、ハラスメントの防止を徹底しながら指導者の養成を図ることが重要です。

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
総登録者数	1,736	1,804	1,776	1,673	1,724	2,222	2,214	2,531	2,928
新規登録者数	82	89	121	87	45	94	90	154 ※(350)	176 ※(451)

※ スポーツ少年団指導者制度の改定に伴う（公財）日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格への移行者および新規登録者を含めた人数

※福井県スポーツ協会調べ

ウ スポーツ医・科学サポートの積極的活用

本県の競技スポーツ選手の育成・強化にあたり、県スポーツ医・科学委員会の各部会員（S-Dr、S-Dent、AT、S-栄養士、S-心理士、S-Ph、S-科学者、S-指導者）によるサポートを積極的に活用することが重要です。スポーツ医・科学アンケート¹⁶によるメディカル・チェック¹⁷を実施し、必要に応じて医科学センターにて障害・傷害の対応（直接検診）を行っています。専属 APT は受診の必要性の判断（トリアージ）を行い、加えて競技継続の可否や怪我の予防、フォームの改善などコンディショニングチェックをしています。専属 S-Ph はドーピング防止活動を行い、S-栄養・S-心理・S-Ph は、個人・団体への講習会を開催しています。また、S-科学者を中心にジュニアアスリートの発掘・育成を行い、S-Dent は必要な競技者に対しマウスガードを作成しています。

また、選手の育成だけに限らず、スポーツ指導者に対しても、スキルの向上が重要です。県スポーツ医・科学委員会の活動に対して理解と参加を得るために、「福井県スポーツ医科学研究大会」への出席を必須とし、スキルの向上を図るよう促しています。

¹⁶ スポーツ医・科学アンケート：国民スポーツ大会強化指定選手および指定候補選手に対して、プロフィール、メディカル、医薬品・サプリメント、心理、栄養等の分野について詳細な情報を収集する Web アンケートのこと。

¹⁷ メディカル・チェック：国民スポーツ大会への参加資格要件として、メディカル、医薬品・サプリメント、心理、栄養等の情報収集を Web アンケートにより行っている。アンケートにより、治療の必要可能性者に対して直接検診によるサポートを行うほか、強化指定選手には専属 APT によるトリアージを行っている。

第3章

計画の基本的な考え方

1 基本理念

スポーツでひろがる “しあわせ実感ふくい”

スポーツには体力の向上や健康の保持増進をはじめ、青少年の健全育成、共生社会の実現、地域の活性化など様々な力・価値を有しています。このスポーツの力を最大限活用し、スポーツを通じて、県民誰もが夢や感動を共有し人生を豊かにし、“しあわせ”を実感できる社会を目指します。県民一人ひとりのそれぞれのスポーツの楽しみ方・関わり方が自然と広がり、県民全体のしあわせ実感（ウェルビーイング）につながっていくイメージを込めています。

2 4つの基本方針

本計画の推進にあたっては、基本理念である「スポーツでひろがる “しあわせ実感ふくい”」を実現するために、以下の4項目を基本方針とします。

ふくい しあわせUP！スポーツプラン



スポーツを通じた「ウェルビーイング」の向上

～スポーツでひろがる “しあわせ実感ふくい”～

3 目指す姿

基本理念の実現に向けて、5年後を目途に「目指す姿」を次のとおり設定します。

目指す姿

I

生涯現役！スポーツと暮らす ふくい

基本方針

1

全世代の日常にスポーツを
～ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の推進～

目指す姿Ⅰは、幼児から高齢者まで県民の誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ「1県民1スポーツ」が根付いた福井を目指します。

幼児から高齢者まで、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、全てのライフステージにおいて、切れ目なく、県民それぞれの体力やライフスタイル、興味や関心に応じたスポーツに取り組むことができるような施策を展開し、あらゆる世代のスポーツ機会の創出やスポーツ・運動習慣の定着化を進めていきます。



目指す姿

Ⅱ

世界へ！トップアスリートの聖地 ふくい

基本方針

2

チームふくいでアスリートの頂点へ
～国民スポーツ大会や国際大会等で活躍する選手の発掘・育成・強化～

目指す姿Ⅱは、全国や世界で活躍するアスリートが福井から育ち、県民に夢や感動を届ける、アスリートが輝く福井を目指します。

県民に夢や感動を届けるトップアスリートを養成し、本県の競技力向上を図るため、発掘・育成・強化サイクルの構築を引き続き推進するとともに、指導者の確保や資質向上、スポーツ医・科学サポートの積極的な活用などに取り組んでいきます。



目指す姿

Ⅲ

楽しもう！スポーツ エンタメ ふくい

基本方針

3

スポーツでワクワクドキドキを

～福井ならではの地域特性を活かしたスポーツ交流の推進～

目指す姿Ⅲは、北陸新幹線開業を契機にスポーツを通じて交流人口が拡大する元気あふれる福井を目指します。本県の豊かな自然を活用したアウトドアスポーツの推進をはじめ、ふくい桜マラソンでは、足羽川や丸岡城など福井の美しい桜スポットや、新幹線と並走する全国でも珍しい新九頭竜橋などを通る、魅力満載のマラソンコースが設定されており、福井でしか味わえないスポーツイベントの開催を進め、福井の魅力を発信していきます。



福井県スポーツまちづくり推進機構（地域スポーツコミッション）を中心に、県内外から人を呼び込む全国スポーツ大会・イベントや合宿の誘致・開催など、訪れる人も県民も楽しめるエンタメ福井の実現を図ります。

目指す姿

Ⅳ

広がる！スポーツの舞台 ふくい

基本方針

4

スポーツの魅力をもっと身近へ

～誰もがスポーツに参画できる「場づくり」の整備・充実～

目指す姿Ⅳは、県民の誰もがスポーツに参加でき楽しめる場や環境が充実し整備されている福井を目指します。

基本方針4は、基本方針1から3に横断的に関わる施策となっており、主にスポーツを「ささえる」側面に焦点をあて、スポーツ活動を支える指導者やボランティアの養成をはじめ、基盤となるスポーツ情報の発信やDXの活用、県有スポーツ施設の長寿命化などに取り組んでいきます。

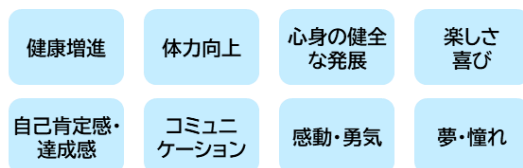


4 スポーツの価値

スポーツには「する」・「みる」・「ささえる」ことを通じて、「楽しさ」や「喜び」などを得ることができるという『スポーツそのものが有する価値』と、スポーツを通じ様々な社会課題の解決などが期待できるという『スポーツが社会活性化等に寄与する価値』の2つの観点があると考えられます。本計画では、こうしたスポーツの価値を最大限活用し、様々な地域課題の解決を図るとともに、スポーツを通じた県民一人ひとりのウェルビーイングの向上を目指します。

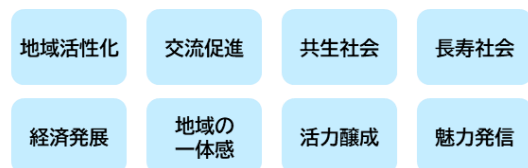
スポーツ自体が有する価値

「スポーツ」を、心身の健全な発達、健康・体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心等の精神の涵養の目的・意図をもって、自発的に取り組む身体活動と捉え、こうした活動を楽しみながら、親しみながら取り組むこと自体に価値がある。



スポーツが社会活性化等に寄与する価値

「スポーツ」は、スポーツ基本法前文も踏まえ、「地域社会の再生」「健康で活力に満ちた長寿社会の実現」「国民経済の発展」「国際相互理解の促進」等の社会活性化・課題解決に寄与することに価値がある。



5 本計画におけるスポーツの範囲

スポーツ基本法において、スポーツとは「世界共通の人類の文化」であり、「心身の健全な発達、健康および体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他精神の涵養等のために個人または集団で行われる運動競技その他の身体活動」とされています。

スポーツを広く捉えることは、全ての県民があらゆるライフステージに応じてスポーツに参画することを促進し、楽しみや喜びといった県民の幸福実感に大きく寄与するものとなることから、本計画におけるスポーツの範囲を以下のとおり定義します。

競技スポーツだけではなく、健やかな体の育成、健康づくり、仲間との交流など、多様な目的を伴い、心豊かな生活や楽しみ・喜びの実感(ウェルビーイング)につながる、自発的・意識的に行うあらゆる身体活動全てまで含めた幅広い範囲でスポーツを定義する。

(ウォーキングやストレッチ、ラジオ体操などの軽運動も含む)

よって、本計画では、以下の活動もスポーツに含めて考えます。

- ・ 幼児の運動遊びや児童・生徒向けの体育授業
- ・ スポーツレクリエーションなどゆるく運動できるもの
- ・ 仕事や通勤、家事の最中に行う健康・体力保持増進を目的とした活動（通勤での一駅歩き、自転車の活用、買い物等での徒歩による移動、階段昇降等） など

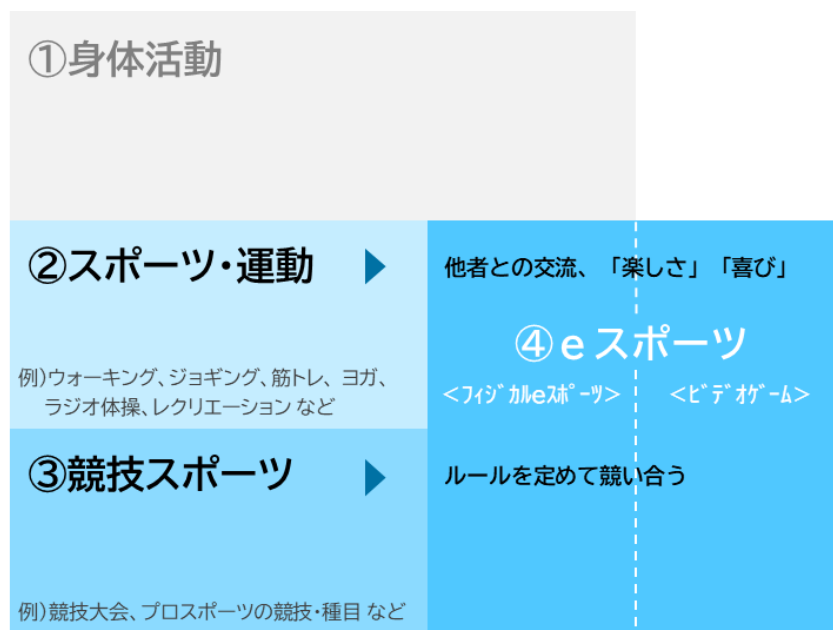
ただし、具体的な施策の記述に当たっては、例えば、子どもの運動・遊びや、子育て世代の運動習慣の定着化など、よりイメージしやすいよう、「遊び」や「運動」といった言葉も用いていますが、本計画の定義でいう「スポーツ」の範囲に含まれるものとして扱っています。

6 本計画におけるeスポーツの位置づけ

近年、急速に新たな競技が生まれるなどの状況を踏まえ、スポーツの範囲については常に新たな視点を持って検討していく必要があります。eスポーツについても、まさに新しい視点で捉えていくべきものと考えられます。

eスポーツは、令和5年に開催されたアジア競技大会¹⁸において初めてeスポーツが正式種目に採用されたほか、国際オリンピック委員会（IOC）は、オリンピックeスポーツゲームズ¹⁹の開催（R7）を正式に決定しました。また、国内においては、令和元年の茨城国体から文化プログラムにeスポーツが採用されているほか、令和6年には高齢者のスポーツの祭典「ねんりんピック」において初めてeスポーツ種目が導入されるなど、全国でeスポーツに関する様々な活動が進んでいます。

こうした国内外の動きを踏まえて、本計画においてもeスポーツを計画に位置づけ、施策展開においてeスポーツを取り入れた取組みを検討していくこととします。eスポーツは、リアルスポーツとの類似点が多くあり、リアルスポーツ同様、競い合って勝敗を決める競技スポーツの側面があるとともに、他者との交流を深め、子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず、誰もが対等に楽しむことができる要素を持っていることから、本計画では、多くの身体活動を伴わないeスポーツも取り込んだ形で取組みを検討していきます。



¹⁸ アジア競技大会：4年に1度開催されるアジア地域最大級の国際総合競技大会のこと。令和5年9月から10月に中国の杭州で開催された第19回大会ではeスポーツが初めて正式競技に採用され、全7種のeスポーツ種目が実施された。

¹⁹ オリンピックeスポーツゲームズ：IOCが国際競技連盟やゲーム会社と連携して設立した世界的なバーチャル・シミュレーションスポーツ競技大会のこと。令和6年7月、IOC総会において、令和7年にサウジアラビアでのeスポーツオリンピックの開催が正式に決定された。

第4章

具体的な施策の展開

基本方針
1

全世代の日常にスポーツを ～ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の推進～

スポーツを通じて心身の健康を保持・増進し、社会的な交流を促し、生活の質を高めることを目的に、県民の誰もがそれぞれの体力や年齢、興味に応じて、いつでも・どこでも・いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指します。

目指す姿Ⅰ

生涯現役！スポーツと暮らす ふくい

施策目標

指 標	R5年度 現状	R11年度 目標
成人の週1回以上運動・スポーツ実施率 (スポーツに関する県民意識調査:福井県 ※無作為抽出)	48.7%	60.0%
運動やスポーツをすることが好きな児童・生徒の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査:スポーツ庁／運動習慣等調査:福井県)	(R6年度) 小5:91.3% 中2:86.2% 高2:83.5%	90%維持 90% 90%
20～30代女性の週1回以上運動・スポーツ実施率 (スポーツに関する県民意識調査:福井県 ※無作為抽出)	19.0%	30.0%

基本施策

- 1 県民総スポーツの機会づくり
- 2 スポーツを通じた共生社会の実現
- 3 スポーツによる健康づくりの推進
- 4 子どものスポーツ活動の充実・豊かな心と健やかな体の育成
- 5 働き盛り子育て世代・女性のスポーツ機会の創出
- 6 シニア世代のスポーツ活動の充実
- 7 パラスポーツの普及拡大

1 県民総スポーツの機会づくり

具体的施策

● スポーツ習慣の定着化やスポーツ参加の促進（スポーツ指導者派遣）

- ・地域スポーツ活動の現場や企業・各種団体などのニーズに応じたスポーツ指導者を派遣して、身体を動かす機会を広げていき、スポーツ習慣の定着化を図ります。

● スポーツ未実施者の参加促進

- ・働き盛り子育て世代・女性を対象となるスポーツイベントを重点的に実施し、身体を動かすきっかけを提供し、スポーツ実施率の向上につなげていきます。

●県民スポーツ祭など年間を通じてスポーツを楽しむ機会の充実

- ・年齢や体力、障がいの有無に関わらず、全ての県民が気軽にスポーツを楽しむことができる機会を創出します。
- ・県民が気軽に参加できる幅広いスポーツ活動の実践の場を提供し、競技・生涯スポーツの振興を図り、生涯に渡って元気で生き生きしたスポーツライフの実現を目指します。

●スポカル FUKUI（スポーツ・文化体験交流イベント）の継続開催

- ・県民のスポーツ・文化活動の活性化や、県民相互の交流を促すため、スポーツ・文化の体験交流イベントを毎年継続して開催します。

●子どもから高齢者まで誰もが楽しみ交流できるスポーツイベントの開催

- ・スポーツレクリエーション、ニュースポーツ、ラジオ体操などの普及拡大を図り、誰もが楽しみ交流できるスポーツイベントの開催を支援します。
- ・県民が生涯を通じてスポーツに親しみ、生きがいや健康づくりにつなげるため、年齢・体力・障がいの有無に関わらず手軽にできるスポーツの普及拡大を図ります。

●県民交流サポーター「はぴりゅう」の活用支援

- ・はぴりゅうを中心とした「はぴねすキャラバン隊」を編成し、県内各種行事や大型集客施設などに出向き「はぴねすダンス」を披露するなどして県民と触れ合うとともに、福井県および県事業のPRを実施し、スポーツ活動を盛り上げます。



©福井県

スポカル FUKUI のスポーツ体験会



はぴねすキャラバン隊

2 スポーツを通じた共生社会の実現

具体的施策

● 障がいの有無を超えたインクルーシブスポーツ大会の開催

- ・障がいのある人が、ない人と一体となった形でスポーツ・運動の習慣化を図るため、県主催のインクルーシブスポーツ²⁰大会を開催するとともに、各競技団体への支援を行うことにより、障がいの有無を超えてスポーツを共に楽しみ合える環境づくりを進めます。

● 福井しあわせ☆パラスポーツデーの継続開催

- ・障がいの有無や程度に関わらず、誰もが一緒に運動やスポーツを楽しみ、交流し、互いの理解を深めるため、パラスポーツイベントを毎年継続して開催します。
- ・嶺北で開催しているパラスポーツイベントを嶺南でも開催し、県内全域において障がいのある人もない人も共に楽しみ交流できる機会を創出します。

● ユニバーサルスポーツの推進

- ・年齢や障がいの有無を超えて県民誰でも一緒に楽しめるユニバーサルスポーツを普及拡大させ、スポーツを通じた交流を促進します。

● パラスポーツ出前講座の開催

- ・小学生や中学生などの子どもたちが、パラスポーツを通じて、障がいについて知り学び、相互理解を促進する機会を創出します。

● e スポーツの普及拡大

- ・年齢や障がいの有無に関係なく楽しめる e スポーツを通して、県民誰もが垣根なく交流できるよう、e スポーツ体験会やイベントを開催し、e スポーツを通じて共生社会の実現を図ります。



トップパラアスリートによる講習会



eスポーツ体験会

²⁰ インクルーシブスポーツ：障がいの有無や年齢、性別、国籍等を問わず誰もが楽しめるスポーツのこと。

3 スポーツによる健康づくりの推進

具体的施策

●㊦職場でエクササイズの推進

- ・1日の大半を過ごす職場において運動に親しむきっかけづくりを進め、職場で簡単にできるストレッチやヨガなどの軽運動を浸透・普及させていき、働き盛り世代の運動習慣の定着を促進します。

●㊦スポーツ習慣の定着化やスポーツ参加の促進（スポーツ指導者派遣）【再掲】

- ・地域スポーツ活動の現場や企業・各種団体などのニーズに応じたスポーツ指導者を派遣して、身体を動かす機会を広げていき、スポーツ習慣の定着化を図ります。

●㊦歩いて健康維持・改善

- ・アプリなどを活用し、歩数目標の達成や健診受診、健康教室参加などの健康行動に市町と連携してインセンティブを付与することにより、歩行を推進して健康行動の習慣化を図ります。
- ・本県が発案した、スニーカーなどでの通勤や勤務を行う「スニーカービズ」について、商工団体等を通じて、事業所に広く推奨します。
- ・ショッピングセンターウォーキングを推奨し、歩く機会を増やします。

●ふくい健康づくり応援サイトによる情報発信

- ・運動をはじめとする健康関連情報を一元的に情報発信します。
- ・職場を含め日常生活の中で簡単に継続できる運動を「ながら運動」として普及啓発し、習慣化を進めます。

●健康経営²¹の考え方の普及啓発

- ・全国健康保険協会福井支部などの関係機関と連携し、健康経営の考え方を普及するとともに、経営者の理解促進を図ります。
- ・従業員の健康づくりに取り組む企業を「ふくい健康づくり実践事業所」として認定し、働き盛り世代の健康づくりを進めます。



職場でエクササイズ



はぴウォーク 2024 キックオフイベント

²¹ 健康経営[®]：NPO 法人健康経営研究所の登録商標。企業が従業員の健康管理を経営課題として捉えて積極的に改善に取り組むことにより、従業員の健康が増進し生産性の向上や組織の活性化が期待できる。

4 子どものスポーツ活動の充実・豊かな心と健やかな体の育成～①幼児への働きかけ～

具体的施策

●🏆幼児の運動遊び応援

- ・子どもたちが多様な動きを総合的に経験できるよう、保育士や幼稚園教諭等を対象とした専門的な研修会やワークショップを開催し、専門スキルの向上を図ります。
- ・幼児期に身体を動かす楽しさを十分に経験し、生涯にわたって運動やスポーツが好きな子どもたちが増えるような取組みを進めます。

●🏆親子レクリエーション活動の促進

- ・親子で一緒に楽しく身体を動かすイベントの開催を促進し、子どもたちの運動遊びの機会づくりを進めます。

●はっぴ～ポン！体操の継続実施

- ・子どもたちの自ら身体を動かそうとする意欲を育て、運動好きな子どもを育む目的で制作した、はぴりゅう体操「はっぴ～ポン！」の出前教室を広く周知し、実施回数を拡充します。

●幼児期における運動遊びの重要性の啓発

- ・保護者向けの「出前家庭教育講座」の中で、幼児期の運動遊びの重要性を啓発します。



幼児向け体操教室



はぴりゅう体操「はっぴ～ポン！」出前教室

4 子どものスポーツ活動の充実・豊かな心と健やかな体の育成～②児童・生徒への働きかけ～

具体的施策

●④持続可能な形でスポーツ活動の充実

- ・市町との部活動のあり方の検討、市町のコーディネーター・指導者の配置等への支援や関係団体等との協議等により、中学校部活動の地域移行を推進します。
- ・県広域スポーツセンター²²や県指導者協議会、各競技団体などの関係機関と連絡・連携を密にしながら、部活動地域移行を推進していきます。

●次世代のスポーツを担う人材育成

- ・運動部活動において、生徒のパフォーマンス向上のため、DXを活用した動作解析やメタラルトレーニングの導入等、スポーツ科学の活用を推進します。

●運動を楽しみ体力をつける学びの推進

- ・達成感や満足感を味わい、誰もが楽しむ体育授業を推進します。
- ・「福井県体力・運動能力調査」を基に各学校が体力向上に対する取組みを推進します。
- ・「はぴりゅうスポーツ広場²³」など、児童・生徒がいつでも運動を楽しむことができる環境を充実させます。



はぴりゅうスポーツ広場を使って運動を楽しむ児童



地域移行により新たな地域クラブ活動で大会出場

²² 福井県広域スポーツセンター：平成16年に福井県運動公園事務所指導普及課内に設置された、地域スポーツクラブの育成や運営支援等を目的とした組織のこと。スポーツイベント・大会、講習会、研修会、県内で活動するスポーツクラブの情報発信や、スポーツ指導者バンクを活用した指導者の紹介を行っている。

²³ はぴりゅうスポーツ広場：令和6年4月から県内小学生を対象に、運動のきっかけづくりや児童が楽しんで運動に取り組んでもらうために構築したシステムのこと。デジタル技術の活用により、小学校6年間分の記録を蓄積したり、リアルタイムで記録を競い合ったりすることができる。

5 働き盛り子育て世代・女性のスポーツ機会の創出

具体的施策

●親子で参加できるスポーツイベント機会の創出

- ・地域の子ども会やPTA等と連携しながら、子育て世代の親子が一緒に楽しく体を動かせるスポーツイベントの開催を推進します。

●子育てママ・パパのための健康づくり・運動習慣づくりをサポート

- ・自宅のスキマ時間でできる簡単な軽運動の取組みを習慣化することにより、スポーツを通じた健康づくりにつなげ、特にスポーツ実施率の低い層のスポーツ実施率を底上げします。

●職場でエクササイズの推進【再掲】

- ・1日の大半を過ごす職場においてスポーツに親しむきっかけづくりを進め、職場で簡単にできるストレッチやヨガなどの軽運動を浸透・普及させていき、働き盛り世代の運動習慣の定着を促進します。

●ふくい女性活躍推進企業へのスポーツ活動支援

- ・女性の活躍推進に向けて積極的に取り組む企業をスポーツの分野から支援し、スポーツ実施率が特に低い働き盛り世代の女性を応援します。
- ・ふくい女性活躍推進企業を対象に講師を派遣し、家庭や職場で気軽に取り組めるストレッチ等の体験を通して、働く女性の健康づくりを進めます。

●スポーツエールカンパニー認定制度²⁴の普及啓発

- ・スポーツエールカンパニー認定制度を広く周知することにより、企業内における運動機会の提供や、徒歩・自転車通勤の推奨など、働き盛り世代のスポーツ実施に向けた気運醸成を図ります。



働き盛り女性向けエクササイズ



職場でできる簡単な軽運動の紹介

²⁴ スポーツエールカンパニー認定制度：スポーツ庁が平成29年に創設した認定制度で、従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取組みを行っている企業を「スポーツエールカンパニー」として認定している。令和4年からは、ハローワークの求人票等に表示できるPRロゴマークに追加されている。

6 シニア世代のスポーツ活動の充実

具体的施策

●スポーツ習慣の定着化やスポーツ参加の促進（スポーツ指導者派遣）【再掲】

- ・地域スポーツ活動の現場や企業・各種団体などのニーズに応じたスポーツ指導者を派遣して、身体を動かす機会を広げていき、スポーツ習慣の定着化を図ります。
- ・老人クラブや高齢者サークルなどにスポーツ指導者を派遣し、シニア層が無理なく楽しく身体を動かし交流できる機会を設けます。

●ふくい健康長寿祭の開催や全国健康福祉祭（ねんりんピック）への参加支援

- ・高齢者のスポーツ活動などを通じた、生きがいづくりや健康づくりの促進を図るため、「ふくい健康長寿祭」の開催や「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」への福井県選手団の派遣を支援していきます。

●フレイル、認知症予防のための運動の推進

- ・フレイル²⁵チェックにより、筋力の衰え等を早期に発見し、市町が実施する体操教室などの介護予防の取組みと合わせた高齢者の自発的な健康づくりを進めます。
- ・eスポーツを活用し、高齢者の身体活動や多世代交流の機会を増やすことで、フレイル予防につなげます。

●歩いて健康維持・改善【再掲】

- ・アプリなどを活用し、歩数目標の達成や健診受診、健康教室参加などの健康行動に市町と連携してインセンティブを付与することにより、歩行を推進して健康行動の習慣化を図ります。
- ・本県が発案した、スニーカーなどでの通勤や勤務を行う「スニーカービズ」について、商工団体等を通じて、事業所に広く推奨します。
- ・ショッピングセンターウォーキングを推奨し、歩く機会を増やします。



シニア世代を対象としたスポーツ講習会



ゲートボール競技大会

²⁵ フレイル：加齢に伴い筋力や認知機能など心身の活力が低下した虚弱状態のこと。

7 パラスポーツの普及拡大

具体的施策

● 新たなパラアスリートの発掘

- ・ 特別支援学校や特別支援学級と連携しながら、合同競技体験会を開催し、将来のパラスポーツを担う若手選手を発掘します。
- ・ 県内の医療機関等と連携し、パラスポーツに関する情報を広く周知することにより、パラスポーツの活動場所を紹介します。

● パラスポーツ指導員の養成

- ・ (公財)日本パラスポーツ協会公認の指導者資格を保有するパラスポーツ指導員の養成を継続的にを行います。

● パラスポーツ指導員のスキルアップ支援

- ・ 公認資格保持者に対するスキルアップの機会を提供し、指導者の資質向上を図るとともに、指導者同士の交流を深めて情報を共有し合う機会を設け、パラスポーツのさらなる普及・促進につなげます。

● パラスポーツに関する情報の発信

- ・ 各種大会やパラスポーツクラブ・サークルに関する様々な情報を発信します。

● 障がい者のスポーツ参加の促進

- ・ 障がい者が気軽に参加できるスポーツ体験教室を定期的に開催します。

● パラスポーツアドバイザーの配置

- ・ スポーツを始めようとする障がい者が相談しやすいよう、パラスポーツに精通した専門家をアドバイザーとして、しあわせ福井スポーツ協会に配置し、経験豊富な有資格者による相談体制を構築します。



福井県障がい者スポーツ大会アーチェリー競技



車いすバスケットボールの試合

基本方針

2

チームふくいでアスリートの頂点へ ～国民スポーツ大会や国際大会等で活躍する選手の発掘・育成・強化～

ジュニアから成年まで各世代での選手の発掘・育成、UIターン推進など、一連の選手強化サイクルを構築し、オリンピック、世界大会、国内大会等で活躍し、県民に夢や感動を届けられるようなアスリートを支援します。国民スポーツ大会での総合成績10位台の競技力維持を目指し、福井国体で得た競技力向上のノウハウを活かして、計画的・継続的な選手強化を進めます。

パラスポーツについてもパラリンピック等で活躍するトップパラアスリートを応援します。

目指す姿Ⅱ

世界へ！トップアスリートの聖地 ふくい

施策目標

指 標	R5年度 現状	R11年度 目標
ジュニアアスリートアカデミー受講者の全国大会出場者数(延べ人数)	累計 28人 (R1～R5)	累計 30人 (R7～R11)
「スポジョブふくい」での UI ターン就職者数	年間 24人	年間 30人
公認スポーツ指導者新規登録者数(コーチ1～4)	年間 62人	年間 100人

基本施策

- 1 ジュニア世代の発掘・育成・強化
- 2 トップアスリートの競技活動支援・UIターン推進
- 3 持続可能な指導体制の構築
- 4 クリーンでフェアなスポーツの推進
- 5 スポーツ医・科学サポートの積極的活用
- 6 トップパラアスリートの発掘・育成・強化

1 ジュニア世代の発掘・育成・強化

具体的施策

● 県選抜チーム、ジュニアクラブ、優秀な地域クラブチームへの活動支援

- ・ 中学校の部活動改革が進む中、中長期的な選手確保・育成・強化を図るために、競技団体の U-15（中学生）選抜チームにおける選手の育成強化を行い、少年種別での競技力強化につなげます。
- ・ 「ふくいジュニアアスリートアカデミー」で発掘された有望な選手を競技団体のジュニアクラブにつなげて育成します。
- ・ 小中学生の継続的な育成・強化を進めるため、地域の優秀なクラブチームに対し、強化活動を支援し、全国で活躍する選手の育成につなげます。

● 自分に適した競技を知る「合同競技体験会」の開催

- ・ 小学3年生から中学3年生を対象に、主に中学校に部活動がない競技を中心に体験会を開催し、普段は触れる機会の少ないスポーツを体験しながら自分に適した競技を見つけることで、競技の普及・競技力の向上を目指します。

● 「ふくいジュニアアスリートアカデミー（FJAA）」による有望選手の発掘・育成

- ・ 自分の可能性を試したい、スポーツで世界に挑戦したいと考えるスポーツ能力の優れる子どもたちを対象に、知識や運動能力等を高めるプログラムや新しい競技を体験する機会を提供します。



ふくいジュニアアスリートアカデミー



ふくいジュニアアスリートアカデミー

2 トップアスリートの競技活動支援・UI ターン推進

具体的施策

●競技力向上を目的とする強化練習会、合宿等の支援

- ・福井国体の成果を継承・発展させ、未来につながるレガシーを創出し、本県の競技力の維持・向上を図ります。
- ・今後も国民スポーツ大会での総合成績 10 位台の競技力維持を目指し、福井国体で得た競技力向上のノウハウを活かして、計画的・継続的な選手強化を進めます。

●県外強豪校からの高校生トップアスリート確保

- ・実家を離れて下宿などで生活し、競技力向上に励む選手を支援し、世界や全国で活躍できるトップアスリートの輩出を目指します。

●有力な成年選手を「スポジョブふくい」で確保

- ・トップアスリートに対して、県と競技団体が一体となり、「スポジョブふくい」を活用したUIターンを推進します。
- ・オリンピック出場を目指している特に競技力の高い選手に対しては、競技団体や企業と連携しながら、出場競技に専念できる環境を整備し、さらなる競技力の向上を図ります。
- ・UIターンにより確保した選手は、現役選手引退後も福井の地で後進の指導に携わり、指導者として本県の競技力向上につながる仕組みを構築します。

●ふるさと選手制度の積極的な活用

- ・本県で育てた選手が大学進学後も本県のふるさと選手²⁶として国民スポーツ大会に出場できるように、競技力向上を図りながら本県への愛着や関心を深めます。競技団体と選手のつながりを強め、大学卒業後の本県へのUIターン促進につなげます。

●企業チーム・クラブチームへの活動支援

- ・国民スポーツ大会などで活躍が期待できるUIターン選手の所属する企業チームやクラブチームを支援し、人材確保と成年種別の競技力向上を図ります。

●アスリートセカンドキャリア支援

- ・現役選手引退後、スポーツ選手としてのキャリアを生かし、指導者や競技団体の役員等で活躍できるよう支援します。



スポジョブふくい UI ターンした選手



ふるさと選手の活用

²⁶ ふるさと選手：居住地である現住所や勤務地以外に“ふるさと”登録のできる都道府県から国民スポーツ大会に参加できる制度。“ふるさと”登録できる都道府県とは、卒業した小・中・高校のいずれかの学校が所在する都道府県を指す。

3 持続可能な指導体制の構築

具体的施策

●公認スポーツ指導者資格等の取得促進

- ・各競技団体が競技力向上の一翼を担う人材を育成するため、(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の取得を支援します。

●スーパーアドバイザーの配置による選手指導および指導者への指導

- ・中央競技団体等から優秀な指導者を定期的に招き、福井県強化指定選手への指導実践や指導者講習会等を通して、選手の競技力向上、指導者の資質向上および競技団体の組織強化を図ります。

●質の高い指導者の養成

- ・スポーツ指導者研修会を毎年実施し、スポーツに関する最新情報のほか、参加者間の情報交換や指導者自身の指導活動について振り返る機会等を提供し、質の高い指導者の養成に取り組みます。

●アスリートセカンドキャリア支援【再掲】

- ・現役選手引退後、スポーツ選手としてのキャリアを生かし、指導者として活躍できるよう支援します。



スーパーアドバイザーによる指導



スーパーアドバイザーによる指導

4 クリーンでフェアなスポーツの推進

具体的施策

●各競技団体等の組織強化

- ・県スポーツ協会と連携し、競技団体におけるガバナンスコードの遵守などによる健全な組織運営を進めます。
- ・競技団体等の女性役員の登用数の増加を図るなど、女性がスポーツをしやすい組織づくりを促進します。

●あらゆる暴力等の根絶に向けた指導者の資質向上

- ・スポーツ分野におけるあらゆる暴力等の根絶に向けて、指導者に対して暴力、ハラスメント、不法行為等の防止に係る普及・啓発を行い、スポーツをする人が安全・安心に活動できる環境整備を進めます。

●ドーピング防止に関する啓発活動

- ・県スポーツ協会と連携し、各競技団体の選手や指導者に対して、アンチ・ドーピング講習会を開き、ドーピングについての知識・規範意識を高め、ドーピング使用防止に努めます。



アンチ・ドーピング講習会



スポーツ指導者研修会

5 スポーツ医・科学サポートの積極的活用

具体的施策

●スポーツに関わる選手への健康管理およびスポーツ障害、外傷の診断・治療・予防

- ・国民スポーツ大会の参加予定選手を対象に Web アンケートを実施します。
- ・メディカルアンケートにより、強化指定外選手に対し、必要に応じ医科学センターにて障害・傷害の対応を行います。また、強化指定選手には専属 APT が直接対応します。
- ・栄養・心理アンケートを検討し、選手の状態を把握するほか、希望調査を行い競技団体や個人に対して講習会を実施します。
- ・医薬品・サプリメントアンケートを基に、S-Ph を全競技団体に専属し、ドーピング防止活動を支援します。

●APT・S-Ph の専属

- ・強化指定選手に対して専属 APT を配置します。一次業務として、メディカルアンケートに加え、身体評価・疾患評価を行い、受診の必要性の判断（トリアージ）により、受診が必要な選手には S-Dr 施設・医科学センターへの受診を促します。二次業務として、競技継続の可否や、怪我の予防やフォームの改善などコンディショニングチェック、競技別強化トレーニング指導を行います。
- ・医薬品・サプリメントアンケートに基づき、全競技団体に専属している S-Ph が、ドーピング違反薬の確認および服薬指導を行います。

●S-Dent による競技力向上サポート

- ・競技をする上で外傷予防に必要なマウスガードはもちろん、選手がベストなパフォーマンスを発揮できるよう身体能力のプラスになるマウスピースを作成し、選手をサポートします。今後は、オーラルケアの重要性を課題とし、普及を目指していきます。

●ふくいジュニアアスリートアカデミーでの活用

- ・S-科学者部会が主体となり、APT による怪我の予防、トレーニング、ストレッチなどコンディショニングの講習会、S-栄養士・S-心理士の講習会、S-Ph によるドーピング防止講習会を行い、可能性に向かってチャレンジする子どもたちを応援します。

●APT・S-栄養士・S-心理士の育成促進

- ・強化指定選手だけでなく全競技団体への専属化のために、県認定 APT・県認定 S-栄養士・県認定 S-心理士の育成講習会の再開を検討します。



国民スポーツ大会強化指定選手の検診



ふくいジュニアアスリートアカデミープログラム

6 トップパラアスリートの発掘・育成・強化

具体的施策

● ④競技力向上を目指すパラアスリートへの活動支援

- ・パラリンピックや世界選手権大会、全国障害者スポーツ大会等で活躍できる選手の増加を図るため、中央競技団体や福井県の強化指定選手に対し、強化活動を継続的に支援します。
- ・日本スポーツ振興センターや中央競技団体等と協力しながら、パラリンピックなど世界レベルの競技大会で輝く未来のトップパラアスリートの発掘に努めます。



トップパラアスリートへの激励金贈呈



オリンピック・パラリンピックメダリストへの福井県スポーツ特別賞贈呈

基本方針
3

スポーツでワクワクドキドキを
～福井ならではの地域特性を活かしたスポーツ交流の推進～

福井県スポーツまちづくり推進機構（地域スポーツコミッション）を中心とし、スポーツが持つ「楽しさ」を、「する」「みる」「ささえる」の各方面から応援することにより、福井ならではのスポーツ文化の醸成を図り、スポーツによる元気あふれる地域づくりを進めていきます。

目指す姿Ⅲ

楽しもう！スポーツ エンタメ ふくい

施策目標

指 標	R5年度 現状	R11年度 目標
県外からの誘致による全国規模の大会・イベント等の開催数	5件	累計 25 件 (R7～R11)
ランニングポータルサイトによるふくい桜マラソン大会満足度 ※参加者 7 千人以上のフルマラソン大会	全国11位 (R7.2時点)	全国 10 位 以内を維持
「FUKUIRAYS」観客動員数 (ホームゲーム平均数の合計)	4,408 人	7,500 人

基本施策

- 1 地域スポーツコミッションを軸とした福井ならではのスポーツツーリズムの推進
- 2 全国規模の大会・イベント、スポーツ合宿誘致活動の強化
- 3 イベント企画・広報などの伴走支援
- 4 ランナー満足度全国トップクラスの「ふくい桜マラソン」の開催
- 5 FUKUIRAYS の活躍応援
- 6 トップアスリートを活用した交流推進

1 地域スポーツコミッションを軸とした福井ならではのスポーツツーリズムの推進

具体的施策

●㊦アウトドアスポーツやアーバンスポーツなどの推進

- ・嶺南地域等でのサイクリングイベントなど、本県の豊かな自然を活用したアウトドアスポーツや手軽に楽しめるアーバンスポーツなど、福井らしさを活かしたスポーツや新しいスポーツの推進に取り組みます。

●㊦地域に根ざした大会やイベントを運営する地域人材の育成

- ・定期的な研修会の開催により、集客力のあるイベントの企画や企画を支える運営人材の育成、「稼ぐ」意識の醸成を図っていきます。

●㊦福井独自のスポーツの「楽しみ」を応援する支援体制の充実

- ・スポーツイベントの開催やイベントを盛り上げるための広報強化などを支援します。
- ・ふるさと納税を活用したスポーツイベント支援を進めます。

●㊦スポーツコミッションによる伴走支援の仕組みづくり・充実化

- ・スポーツコミッションコーディネーターとともに、大会・イベント等の誘致活動や情報発信、県内競技団体との企画・調整を行います。



スポーツ大会でのおもてなし



ツール・ド・ふくい2024

2 全国規模の大会・イベント、スポーツ合宿誘致活動の強化

具体的施策

- 市町や競技団体と連携した日本代表等のスポーツ合宿の誘致や受入地域との交流促進**
 - ・市町や競技団体と連携し、各地域の特色あるスポーツを軸として日本代表合宿等の誘致を進め、スポーツツーリズムによる地域への経済波及効果および社会的効果を分析し、本県への継続的な誘致や市町の自立した運営を働きかけていきます。
 - ・スポーツコミッションコーディネーターなどの専門人材と共に、地域にある合宿地や施設を洗い出し、市町や競技団体と連携して、様々なスポーツ合宿の誘致を進めていきます。
- インバウンドが見込まれるスポーツ大会・イベントの開催を支援**
 - ・海外からのスポーツによる交流人口を拡大するため、インバウンドが見込まれるスポーツ大会・イベントの開催を支援していきます。
- ワールドマスタースゲームズ 2027 関西の開催・支援**
 - ・関西各府県と連携してワールドマスタースゲームズ 2027 関西の開催に向けた準備を進めるとともに、プレ大会の開催を誘致・支援することにより、海外からの選手・関係者などとの国際交流を図ります。
- 全国規模のスポーツ大会やスポーツイベントの開催支援**
 - ・スポーツコミッションを核とした、県内団体と連携した大会・イベント受入体制の充実を図ります。



ディスクゴルフ大会



JJSL CUP(小学生ソフトボール大会)

3 イベント企画・広報などの伴走支援

具体的施策

● SNS など用いた効果的な集客や企画ができる専門人材の育成

- ・スポーツコミッション加盟団体向けに、SNS などの効果的な活用に関する講演会や、先進的なスポーツコミッションの事例紹介の機会を提供するなど、スポーツを通じて、地域を活性化させる人材やスポーツで「稼ぐ」人材の育成を図ります。

●スポーツコミッションの加盟団体と連携した企画や広報等の推進

- ・スポーツコミッションコーディネーター等と連携してコミッション加盟団体の横のつながりを強化しながら、スポーツイベント開催を目指した企画や、集客面で効果的な周知方法等の調査を行い、より効果的な企画・広報を共有します。
- ・スポーツ情報ポータルサイト「F.sports!」等を通じて、加盟団体等が主催する大会やイベントを広く周知します。



福井県スポーツまちづくり推進機構 情報交流会(先進事例講演会)



アーバンスポーツイベント(効果的な広報により大会参加者増加)

4 ランナー満足度全国トップクラスの「ふくい桜マラソン」の開催

具体的施策

●国内外の多くのランナーに選ばれる、持続可能な「ふくい桜マラソン」の開催

- ・ボランティアや沿道応援など、県民一丸となったもてなしによるランナー満足度の向上を通じ、北陸最大級となる15,000人規模の大会を継続して開催します。
- ・大会プロデューサー等と連携したトップアスリートの招聘や県内ジュニアアスリートの育成により、福井から世界に羽ばたくランナーの輩出を目指します。

●県内参加者の裾野拡大

- ・持続的な大会開催の基礎となる、県内のランニング人口を拡大するため、リレーマラソンなど初心者でも楽しくランニングに取り組めるイベント等を開催します。



ふくい桜マラソン 2024(新九頭竜橋地点)



ふくい桜マラソン 2024(スタート地点)

5 FUKUIRAYS の活躍応援

具体的施策

- 🏠ホーム戦を盛り上げ、新規ファンの獲得など地域に愛されるチームづくりを応援
 - ・FUKUIRAYS のホーム戦をさらに盛り上げるため、会場が一体となった応援体制の構築を支援し、チームの応援を活性化します。
- 🤝合同研修会や情報交流会等の実施
 - ・プロスポーツチームや県内スポーツ関係団体、FUKUIRAYS の経営関係者や選手等を対象に SNS 発信力の強化や、集客力アップのノウハウなどの情報を交換できる場を設けて、団体間の連携・協力体制の構築を図ります。
- 🌐県外からの観客増を目的としたスポーツツーリズムの造成
 - ・県外からの誘客拡大を図るため、FUKUIRAYS のアウェイゲームで福井の魅力を発信するなどし、ホームゲームの観客数増加につなげるスポーツツーリズムを推進します。
- FUKUIRAYS の認知度向上
 - ・地元メディアによるホーム戦のダイジェスト放送や、地域のイベントへの選手の派遣により、地域に根差したチームづくりを進め、県民の認知度向上を図ります。
 - ・ふるさと納税を活用した支援制度を設けることで、自治体からの直接的な支援のみならず、民間の資本も活用しながら地域に根ざす、地元の誇りとなるようなスポーツチームづくりを応援します。



福井丸岡 RUCK



福井永平寺ブルーサンダー

6 トップアスリートを活用した交流推進

具体的施策

●スポーツイベントへのトップアスリートの招聘

- ・スポーツイベントにオリンピックやパラリンピアンなどのトップアスリートを招き、県民向けのスポーツ教室を開催することにより、県民のスポーツに対する興味・関心を醸成し、県内スポーツの機運を高めます。
- ・有名選手と一緒にスポーツを体験することにより、スポーツの楽しさを味わい、イベントの盛り上がりを促進するとともに、障がいの有無に関わらずスポーツの楽しさを共有し、障がいやパラスポーツの理解を促進します。

●ジュニア向けトップアスリート講習会の開催

- ・ふくいジュニアアスリートアカデミーの受講生に対して、本県ゆかりの国内トップレベル選手による講習会を開催し、将来、世界で活躍できる選手の育成を目指します。



トップアスリートとの交流



ふくいジュニアアスリートアカデミーでのディスカッション

基本方針
4

スポーツの魅力をもっと身近へ

～誰もがスポーツに参画できる「場づくり」の整備・充実～

県民の誰もが主体的にスポーツに参画するための基盤整備として、指導者やボランティアなどのスポーツ活動を支える人材の育成や受け皿となる地域スポーツクラブなどの育成のほか、県有スポーツ施設の長寿命化や利活用などに取り組みます。

目指す姿Ⅳ

広がる！スポーツの舞台 ふくい

施策目標

指 標	R5年度 現状	R11年度 目標
スポーツ指導者バンク登録者数	153人	500人
スポーツボランティアバンク登録者数	254人 (R7.2時点)	800人
スポーツを「する」「みる」ことが好きな人の割合 (スポーツに関する県民意識調査：福井県 ※無作為抽出)	86.6%	95.0%

基本施策

- 1 スポーツを支える組織や体制の充実
- 2 スポーツ指導者の育成と質の向上
- 3 スポーツボランティア活動の推進
- 4 デジタル技術を活用したスポーツ活動の推進
- 5 e スポーツの普及拡大
- 6 スポーツ施設の長寿命化と利活用

1 スポーツを支える組織や体制の充実

具体的施策

● 総合型地域スポーツクラブの育成支援

- ・ 総合型クラブの創設・育成や自立的・安定的な運営を促進するため、クラブアドバイザーによる指導・助言を行うとともに、クラブの活動を広く知ってもらうための情報発信を図ります。
- ・ 総合型クラブの資質向上のための研修会等を開催します。
- ・ 県スポーツ協会や県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、各市町との連携を深めながら、総合型クラブの質的充実を図り、持続可能な運営体制となるよう支援します。

● スポーツ少年団の育成支援

- ・ 県スポーツ協会と連携してスポーツ少年団の活動を支援し、子どもたちのスポーツの機会を後押しします。
- ・ スポーツ少年団活動の中心となるリーダーの育成や指導者への研修会等を通じて、活動の活性化を図ります。

● スポーツ少年団と総合型クラブの連携体制の促進

- ・ 活動場所の確保や担い手の人材不足などの共通の課題を解決するために、スポーツ少年団と総合型クラブの連携を促進します。

● 組織や団体の運営を支える人材の育成

- ・ 総合型クラブやスポーツ少年団、その他の地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員等を対象にした人材育成の研修会等を開催し、スポーツ活動を支える人材の育成を進めます。



スタートコーチ養成講習会



アクティブチャイルドプログラム研修会

2 スポーツ指導者の育成と質の向上

具体的施策

●公認スポーツ指導者資格等の取得促進【再掲】

- ・各競技団体が競技力向上の一翼を担う人材を育成するため、(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の取得を支援します。

●地域スポーツクラブ指導者向け研修会の開催

- ・健康づくり、基礎体力づくりなど、基礎的な知識を学ぶ研修会を開催することにより、指導者の資質向上を支援します。

●スポーツ指導者バンク登録者を対象とした講習会の開催

- ・より専門的な指導方法を学ぶ研修を通じて、バンク登録者の資質向上を図り、スポーツ指導者バンクの利用を促進します。

●スポーツ推進委員との連携の強化

- ・スポーツ推進委員を対象とした研修会を開催し、イベントの企画や運営力を知る機会等を提供することにより、地域スポーツを支える人材の資質向上を図ります。
- ・県や市町が地域スポーツの推進役となるスポーツ推進委員との連携を深めることにより、ユニバーサルスポーツやスポーツレクリエーション、パラスポーツなどのイベントが各市町で根付き、地域住民が広く参加できる機会の確保に努めます。



スポーツ推進委員向け講習会



健康づくり指導者講習会

3 スポーツボランティア活動の推進

具体的施策

●スポーツボランティア会員・募集团体会員の登録呼びかけ

- ・「F.sports!」などを活用し、スポーツボランティアの登録を継続的に呼びかけて登録者数の拡大を図り、スポーツボランティア活動の参加を促進します。

●スポーツボランティアへの参加者向け講習会の開催

- ・スポーツボランティアのリピーター確保およびボランティアリーダー育成のため、嶺北・嶺南エリアで講習会を開催し、ボランティアの養成を進めます。



ふくい桜マラソン 2024 ボランティア



福井ブローウィンズ ボランティア

4 デジタル技術を活用したスポーツ活動の推進

具体的施策

● デジタル地域通貨決済プラットフォーム「ふくいハピコイン²⁷」の活用

- ・ふくいハピコインを活用したインセンティブを付与することにより、スポーツ未実施者層やスポーツ実施率の低い層に対して、スポーツ参加のきっかけを提供します。

● 福井県スポーツ情報ポータルサイト「F.sports!」の積極的な活用

- ・「F.sports!」に県内スポーツ情報が網羅されアクセスしやすい体制を構築するために、県広域スポーツセンター、県スポーツ協会、しあわせ福井スポーツ協会等と連携を深め、「F.sports!」をハブとした情報発信を強化します。

● SNS を活用した情報発信

- ・最新のスポーツイベント情報や試合結果、ボランティア募集情報など、SNS を活用した最新のスポーツ情報を発信してスポーツへの参加を促進します。

● ICT の活用

- ・大学等と連携して動作解析ソフトを用いた指導実践などにより競技力や指導力の向上を図ります。



福井県スポーツ情報ポータルサイト「F.sports!」



²⁷ ふくいハピコイン：スマートフォンアプリ「ふくアプリ」を利用したデジタル地域通貨決済プラットフォーム

5 e スポーツの普及拡大

具体的施策

●障がいのあるなしに関わらず、誰もが一緒に楽しめる e スポーツの普及促進

- ・ e スポーツによる障がい者への効果やメリットなどを検証・周知することにより、障がい者への e スポーツ普及促進を図ります。

● e スポーツイベントによる多世代交流の機会の創出

- ・ 高齢者施設での e スポーツ機器導入を支援し、高齢者の e スポーツ人口増加を目指すとともに、関係団体と協働し、子どもから高齢者まで参加できる e スポーツ交流体験会を開催し、高齢者の活躍の場や年齢の壁を越えた多世代交流の機会を創出します。

● e スポーツを活用した交流イベントの開催

- ・ e スポーツの体験ブースやトーナメントの開催、プロ選手によるパフォーマンスを通じて、e スポーツの魅力を発信し、普及を図ります。



e スポーツの体験ブース



e スポーツのトーナメント

6 スポーツ施設の長寿命化と利活用

具体的施策

●県有スポーツ施設にネーミングライツを導入し新たな財源を確保

- ・ネーミングライツ²⁸を導入することにより、県内スポーツ振興に寄与する事業や老朽化する施設の維持管理補修費のための財源を確保します。

●県有スポーツ施設の適正な維持管理と利活用

- ・施設の維持修繕・更新を計画的に実施して、施設の機能やサービスの質の向上を図り、一般利用から全国的な競技大会・スポーツイベントなど、幅広い利用を促進します。

●障がい者が利用しやすいスポーツ施設に向けたバリアフリー化

- ・利用者の意見を反映し、ユニバーサルデザインを導入することにより、誰もが利用しやすい環境の整備に努めます。

●県内のスポーツ施設の情報の収集と発信

- ・福井運動公園をはじめとする県内スポーツ施設の情報を広く提供します。

●多目的アリーナ計画の支援

- ・民間が整備する多目的アリーナ計画を支援することにより、スポーツを「する」「みる」環境を充実させ、地域の賑わいを創出します。



セーレン・ドリームスタジアム(福井県営球場)



セーレン・ドリームアリーナ(福井県営体育館)

²⁸ ネーミングライツ：公共施設の愛称として企業の社名や商品ブランド名を付けるもので、施設運営等の経費を捻出する方法のこと。

第5章

計画の推進

1 目標達成の指標

各基本方針の目標達成の指標は以下のとおりとします。

	指 標	R5年度 現状	R11 年度 目標
基本方針 1	成人の週1回以上運動・スポーツ実施率 (スポーツに関する県民意識調査:福井県 ※無作為抽出)	48.7%	60.0%
	運動やスポーツをすることが好きな児童・生徒の割合 (体力・運動能力調査:スポーツ庁/運動習慣等調査:福井県)	(R6年度) 小5:91.3% 中2:86.2% 高2:83.5%	90%維持 90% 90%
	20～30 代女性の週1回以上運動・スポーツ実施率 (スポーツに関する県民意識調査:福井県 ※無作為抽出)	19.0%	30.0%
基本方針 2	ジュニアアスリートアカデミー受講者の全国大会 出場者数(延べ人数)	累計 28人 (R1～R5)	累計 30人 (R7～R11)
	「スポジョブふくい」でのUIターン就職者数	年間 24人	年間 30人
	公認スポーツ指導者新規登録者数(コーチ1～4)	年間 62人	年間 100人
基本方針 3	県外からの誘致による全国規模の大会・イベント等の 開催数	5件	累計 25 件 (R7～R11)
	ランニングポータルサイトによるふくい桜マラソン 大会満足度 ※参加者 7 千人以上のフルマラソン大会	全国11位 (R7.2時点)	全国 10 位 以内を維持
	「FUKUIRAYS」観客動員数 (ホームゲーム平均数の合計)	4,408 人	7,500 人
基本方針 4	スポーツ指導者バンク登録者数	153人	500人
	スポーツボランティアバンク登録者数	254 人 (R7.2時点)	800人
	スポーツを「する」「みる」ことが好きな人の割合 (スポーツに関する県民意識調査:福井県 ※無作為抽出)	86.6%	95.0%

2 推進体制

本県では、スポーツ推進にあたり、スポーツにかかる関係機関・団体等との連携を図るとともに、学校体育やスポーツ医・科学等の各種専門的知見の取組みに反映させるため、条例に基づき、「福井県スポーツ推進審議会」を平成24年3月に設置しました。

- (1) 同審議会が中心となって、推進計画に基づきスポーツを推進するとともに、推進計画の進捗管理を行います。
- (2) 県は、市町および市町教育委員会、関係機関、スポーツ関係団体などとの連携体制を強化しながら、推進計画の周知を図り、同計画に基づく取組みを推進します。

本計画の基本理念「スポーツでひろがる“しあわせ実感ふくい”」実現のため、計画の内容を県民、市町、スポーツ関係団体等に広く周知し、スポーツの価値を普及・啓発していくことが重要であるため、県公式ホームページやSNS、概要版パンフレットなど様々な媒体を活用して広く発信し、本計画の周知を図ります。

3 進行管理

スポーツに関する県民意識調査を実施して目標達成状況を把握し、計画に掲げた施策の基本的方向や具体的な施策などについては、その進捗状況や評価を県民に公表するとともに、次年度以降の施策の展開に反映し、より高い実効性を担保できるよう努めます。

また、社会・経済情勢の大きな変化や、国の制度改正等が生じた場合は、計画期間中においても、必要に応じて柔軟かつ適切に施策の見直しを行います。

資料編

参考資料 1 社会情勢の変化・国の動向

- (1) 福井県の総人口の減少、少子高齢化の進行
- (2) 新型コロナウイルス感染症の影響
- (3) オリンピック・パラリンピックの開催とレガシーの継承・発展
- (4) 中学校における休日部活動の地域移行
- (5) デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展
- (6) SDGs（持続可能な開発目標）への貢献
- (7) 共生社会の実現
- (8) 高速交通ネットワークの整備
- (9) 幸福度日本一
- (10) 国のスポーツ推進計画（第3期スポーツ基本計画）

参考資料 2 スポーツに関する県民意識調査（R5）結果概要

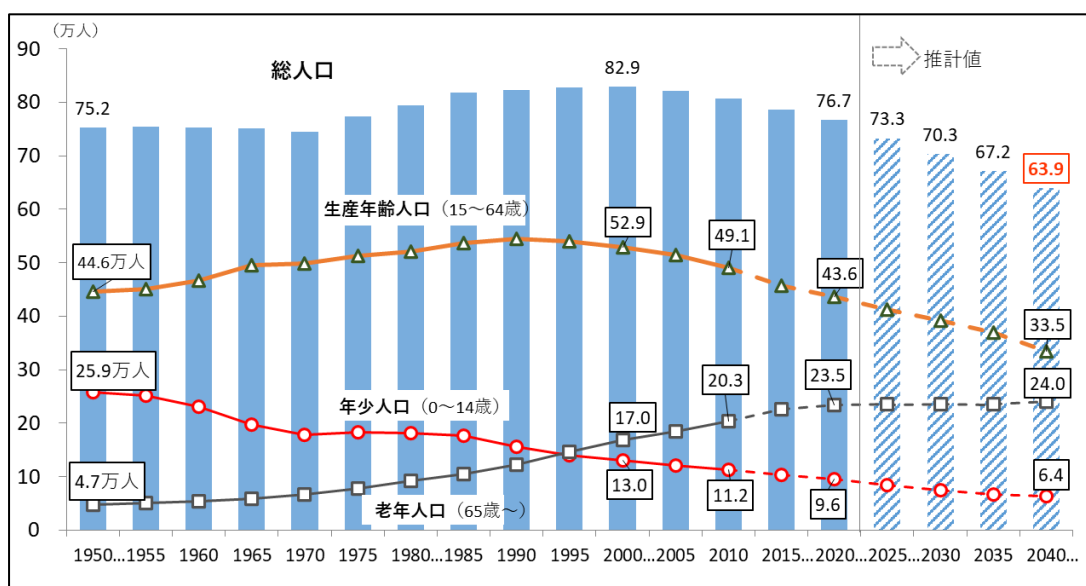
- ・ 調査の概要
- ・ 回答者の属性
- ・ スポーツ実施率
- ・ 健康と運動頻度
- ・ 体力と運動頻度
- ・ 運動不足
- ・ 運動・スポーツ実施状況に対する満足度
- ・ 運動・スポーツの今後の実施予定
- ・ 運動習慣を身につけるために必要なこと
- ・ この1年間に行った運動・スポーツ
- ・ 今後始めてみたい運動・スポーツ
- ・ FUKUI RAYS の認知度
- ・ ボランティア活動について
- ・ ボランティア活動のきっかけ

参考資料 3 福井県スポーツ推進審議会委員名簿**参考資料 4** 計画策定までの経緯

参考資料 1 社会情勢の変化・国の動向

(1) 福井県の総人口の減少、少子高齢化の進行

平成 12 年（2000 年）の 82.9 万人をピークに、本県では人口減少が続いており、直近では 74.4 万人（R6.1）となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると 2040 年には 63.9 万人程度まで減少する見込みで、老年人口が増加する一方、年少人口や生産年齢人口はほぼ一貫して減少するとされています。人口減少が加速化する中、これからは交流人口や関係人口の拡大が重要になります。



(2) 新型コロナウイルス感染症の影響

令和 2 年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ活動が制限されたことに伴い、体力の低下やストレスの増加など、心身の健康保持への悪影響が生じたほか、スポーツを中心とした交流イベントや大会が中止となり、閉塞感が蔓延しました。

一方で、スポーツが日々の生活や社会に活力を与えるなど、優れた効果を及ぼす重要な価値を持つことが改めて示されたとも言えます。

(3) オリンピック・パラリンピックの開催とレガシーの継承・発展

東京オリンピック・パラリンピックは、開催が 1 年延期されるとともに、史上初めて大部分の競技を無観客として開催されましたが、国内外の多くの人々に感動を与え、スポーツの持つ素晴らしさが再認識されました。本県からは 20 名の選手が出場し、フェンシングや野球で金メダルを獲得しました。

また、令和 6 年に開催されたパリオリンピック・パラリンピックにおいては、本県ゆかりの選手が 7 名出場し、体操で金メダル、フェンシングで銀メダル、パラ陸上で銅メダルを獲得するなど世界最高峰の舞台で輝かしい活躍を果たし、県民に勇気と感動を与えてくれました。

（４）中学校における休日部活動の地域移行

「学校部活動および新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（R4.12 スポーツ庁公表）では、少子化に伴う生徒数の減少により、将来に渡り子どもたちがスポーツに継続して親しむことができる機会の確保に向けて、国では令和５年度から令和７年度までの３年間で改革推進期間として取り組むこととしています。

令和６年度末での休日部活動地域移行の進捗割合は、全国トータルで２１％であるのに対し、本県では５０％が移行する見込みとなっています。今後さらに進めるためには、指導者および受け皿団体の確保が大きな課題です。

学校と地域が協働・融合した形で、地域のスポーツ環境の整備を進めていくことが重要であり、スムーズな移行に向けて、各競技団体の協力や民間企業の理解を得ながら、教育委員会と密接に連携し対応していくことが必要です。

（５）デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展

令和３年９月に日本のデジタル社会実現の司令塔としてデジタル庁が発足し、国や地方公共団体、民間事業者などが連携し、社会全体のデジタル化を推進する取組みが加速化しました。「誰一人取り残されない、人にやさしいデジタル化」を掲げ、デジタルの活用により、多様な幸せが実現できる社会を目指し、スポーツ分野においてもDXの導入が進んでいます。DXの導入により、様々なスポーツに関する知見や機会を社会に広く提供することが可能となり、スポーツを「する」「みる」「ささえる」実効性が高まっていくと考えられます。

（６）SDGs（持続可能な開発目標）への貢献

持続可能な開発のための２０３０アジェンダ宣言では、スポーツも目標達成に向けた重要なツールとして位置づけられています。スポーツが持つ力・価値を活用し、持続可能な社会づくりに貢献していくことが重要です。

「２０３０アジェンダ」一部抜粋

スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものである。我々は、スポーツが寛容性と尊厳を促進することによる、開発および平和への寄与、また、健康、教育、社会包摂的目標への貢献と同様、女性や若者、個人やコミュニティの能力強化に寄与することを認識する。



(7) 共生社会の実現

本県では、平成 30 年に「障がいのある人もない人も幸せに暮らせる福井県共生社会条例」を制定し、障がい者の自立および社会参加の支援ならびに障がいを理由とする差別の解消を推進し、すべての県民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら幸せに暮らせる共生社会の実現を目指しています。この条例第 15 条は障がい者スポーツの振興を規定しています。

「障がいのある人もない人も幸せに暮らせる福井県共生社会条例」一部抜粋

第15条（障がい者スポーツの振興）

県は、障がい者が障がいの特性に応じて参加することができるスポーツ（以下「障がい者スポーツ」という。）の振興を図るとともに、障がい者と障がい者でない者の相互理解が促進されるよう必要な施策を講ずるものとする。

2 県は、障がい者が障がい者スポーツに参加できる機会の提供に努めるとともに、障がい者スポーツの指導者の養成および資質の向上その他の必要な施策を講ずるものとする。

3 県は、パラリンピック競技大会、デフリンピック競技大会その他の国際的な規模のスポーツ競技会または全国的な規模のスポーツの競技会で活躍できる障がい者スポーツの選手を育成するために必要な施策を講ずるものとする。

(8) 高速交通ネットワークの整備

令和6年3月に北陸新幹線福井・敦賀開業が実現し、今後は、一日も早い大阪までの全線開業の実現を目指しています。また、令和8年以降には中部縦貫自動車道の県内全線開通も予定されており、こうした高速交通網の整備によって三大都市圏とのアクセスがしやすくなり利便性が高まります。

このことは、本県観光交流人口を拡大させ、知名度を高める千載一遇のチャンスが到来したと考えられ、スポーツ分野においてもスポーツツーリズムのさらなる推進を図り、スポーツを通じた交流人口の拡大を重点的に取り組むことが重要です。



(9) 幸福度日本一

本県は「全 47 都道府県幸福度ランキング 2024 年版²⁹⁾」（一般財団法人日本総合研究所編）において、12 年連続で総合 1 位となりました。（2014 年版、2016 年版、2018 年版、2020 年版、2022 年版に続き、6 回連続の「幸福度日本一」を達成。）

85の統計指標の総合評価で12年連続の幸福度日本一										
順位	2014年版 (60指標)	順位	2016年版 (65指標)	順位	2018年版 (70指標)	順位	2020年版 (75指標)	順位	2022年版 (80指標)	順位 2024年版 (85指標)
1位	福井県	1位	福井県	1位	福井県	1位	福井県	1位	福井県	1位 福井県
2位	東京都	2位	東京都	2位	東京都	2位	富山県	2位	石川県	2位 東京都
3位	長野県	3位	富山県	3位	長野県	3位	東京都	3位	東京都	3位 富山県

ただし、スポーツに関わる指標については、スポーツの活動時間が前回と比較して順位を落とすなど、全国と比較して低い指標もみられます。スポーツの活動時間が順位を下げた点については、コロナ禍での活動自粛に多くの県民が協力した裏返しでもありと考えられ、今後は、スポーツ・運動の習慣化を促進する取組みを強化し、県民のスポーツ活動時間を延ばしていく施策を展開していきます。

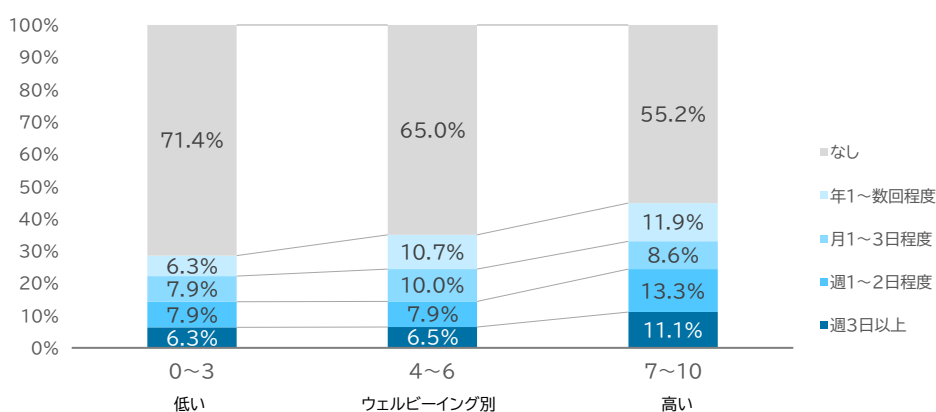
体育・スポーツ 施設数	スポーツの活動時間	総合型地域 スポーツクラブ育成率	子どもの運動能力	文化活動等 NPO 認証数 ※
18位	39位	20位	1位	46位
教育・娯楽 (サービス) 支出額	余暇時間	健康寿命	平均歩数	※「学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動」を行う NPO 認証数
26位	36位	13位	31位	

また、本県では、幸福度日本一のその先を目指して、客観的な統計などの評価に加え、主観的な県民の幸せの実感（ウェルビーイング）を高める取組みにも力を入れています。デジタル庁の主観的幸福度を測る調査（R6）によると、本県の主観的な幸福度は全国 4 位と高い水準にあり、県民アンケート³⁰⁾（R5）によると、スポーツを実践している人ほどウェルビーイングが高いなど、スポーツとウェルビーイングには関係があることが分かっています。今後、スポーツ分野においてもこの取組みを押し進め、スポーツの力を通じて県民一人ひとりの生活や心がより豊かになる「ウェルビーイング」の実現を目指していきます。

²⁹⁾ 全 47 都道府県幸福度ランキング 2024 版：一人あたり県民所得などの基本指標と、分野別指標（健康、文化、仕事、生活、教育）など全 85 指標により都道府県の幸福度を算出している。

³⁰⁾ 県民アンケート：長期ビジョンや県の行う施策等について県民の意見を継続的に把握し、政策の立案等に反映することで、長期ビジョンが目指す将来像を実現するため、令和元年度より福井県が毎年実施しているアンケートのこと。

問 あなたは、この1年に、スポーツを実践したことはありましたか

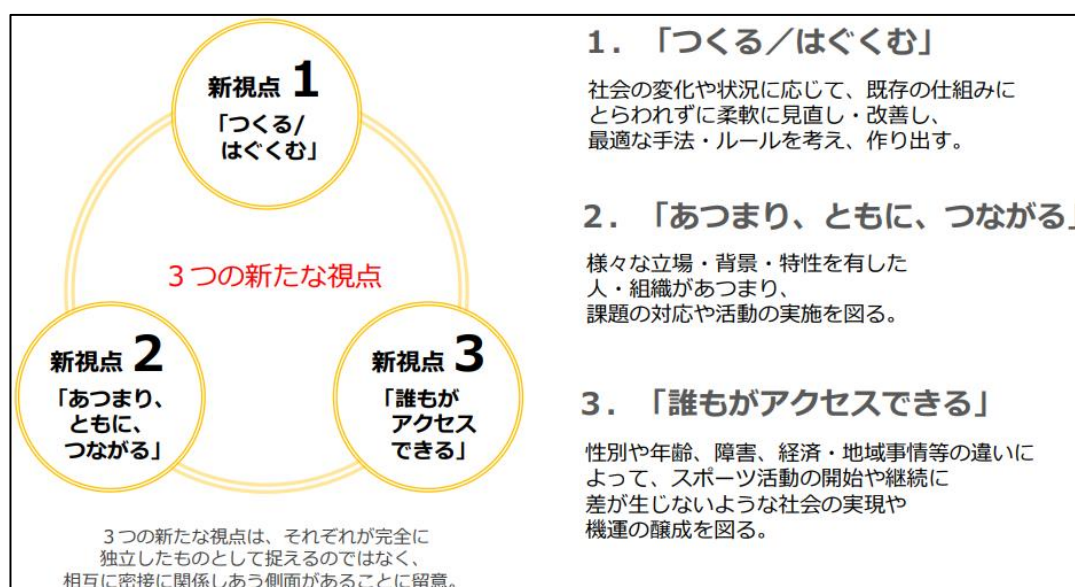


出典:R5長期ビジョンの実現に向けた県民アンケート(福井県)

(10) 国のスポーツ推進計画（第3期スポーツ基本計画）

令和4年3月に策定された国の「第3期スポーツ基本計画」では、第2期計画の基本方針を踏襲しつつ、国民が「する」「みる」「ささえる」ことを実現できる社会を目指し、新たな3つの視点が追加されました。

- ・社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれず柔軟に見直し、最適な手法を考えて作り出す、『スポーツを「つくる／はぐくむ」視点』
- ・様々な立場、背景、特性を有した人や組織が『「あつまり」、「ともに」活動し、「つながり」を感じながらスポーツに取り組める社会の実現を目指す視点』
- ・性別、年齢、障がいの有無、経済的事情、地域事情等にかかわらず、『全ての人がスポーツにアクセスできるような社会の実現・機運の醸成を目指す視点』



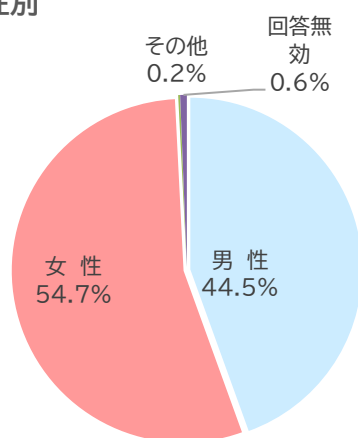
参考資料2 スポーツに関する県民意識調査（R5）結果概要

調査の概要

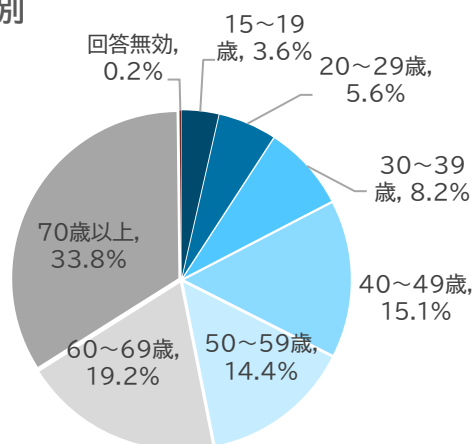
- 調査目的 スポーツ振興策を企画立案するための基礎資料とするため、県民のスポーツに関する実態や意識などを集計・分析することを目的とした調査を委託するものである。
- 調査対象 福井県在住者の満15歳以上の男女(2,000人)
- 回収数 1,122人（回収率56.1%）
- 調査期間 令和5年10月～11月
- 選定方法 人口分布および県内年齢構成に基づき無作為抽出
- 調査方法 郵送により無記名調査票を送付し、郵送又はWEBにより回収

回答者の属性

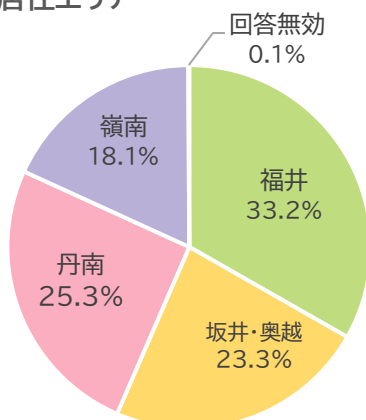
ア 性別



イ 年代別



ウ 居住エリア



1 スポーツ実施率

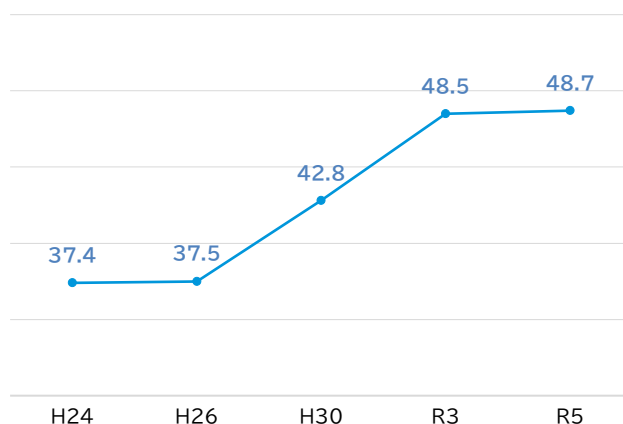
この1年間に運動やスポーツを実施した日数について尋ねたところ、20 歳以上の週 1 日以上スポーツを実施する割合は、48.7%であった。

男女別年代別に週 1 日以上のスポーツ実施率を見ると、女性の 20 代～30 代の実施率の低さが顕著である。

年代別の週1日以上のスポーツ実施率(%)

	全体	男性	女性
全年代	49.5	48.0	51.1
20 歳以上	48.7	46.5	50.7
15～19 歳	72.5	93.3	60.0
20～29 歳	44.4	54.5	28.6
30～39 歳	29.3	48.8	13.7
40～49 歳	41.9	39.7	43.8
50～59 歳	47.4	46.4	48.3
60～69 歳	55.7	44.4	67.0
70 歳以上	54.1	49.0	59.1

20歳以上の週1日以上のスポーツ実施率の推移(%)

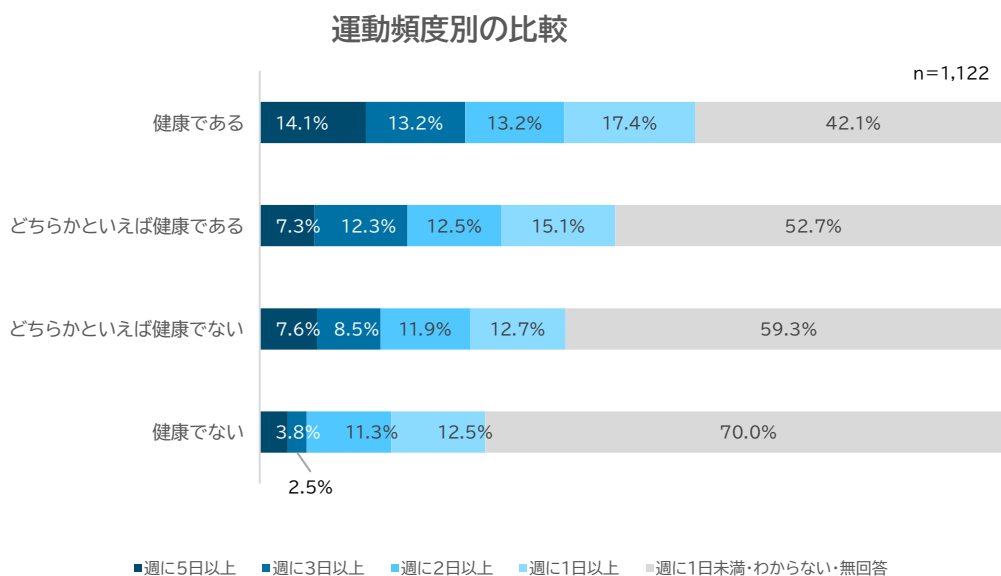


回答者数(人)

	全体	男性	女性
全年代	1,078	490	581
20 歳以上	1,038	475	556
15～19 歳	40	15	25
20～29 歳	63	33	28
30～39 歳	92	41	51
40～49 歳	167	78	89
50～59 歳	156	69	87
60～69 歳	203	99	103
70 歳以上	357	155	198

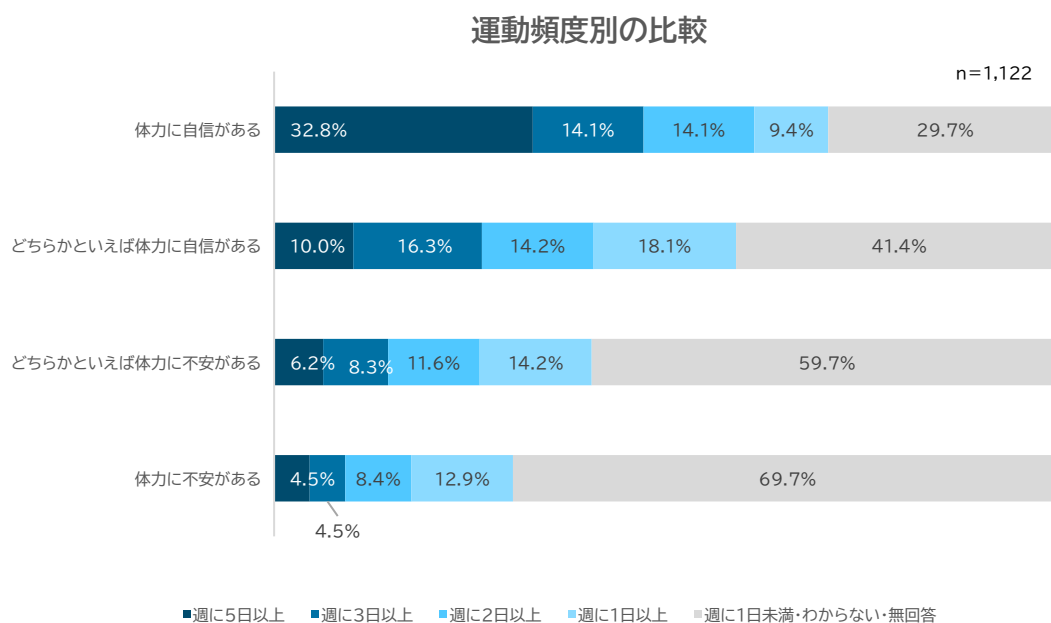
2 健康と運動頻度

普段の健康状態について尋ねたところ、
運動頻度が高いほど「健康である」とする割合が高い傾向にあった。



3 体力と運動頻度

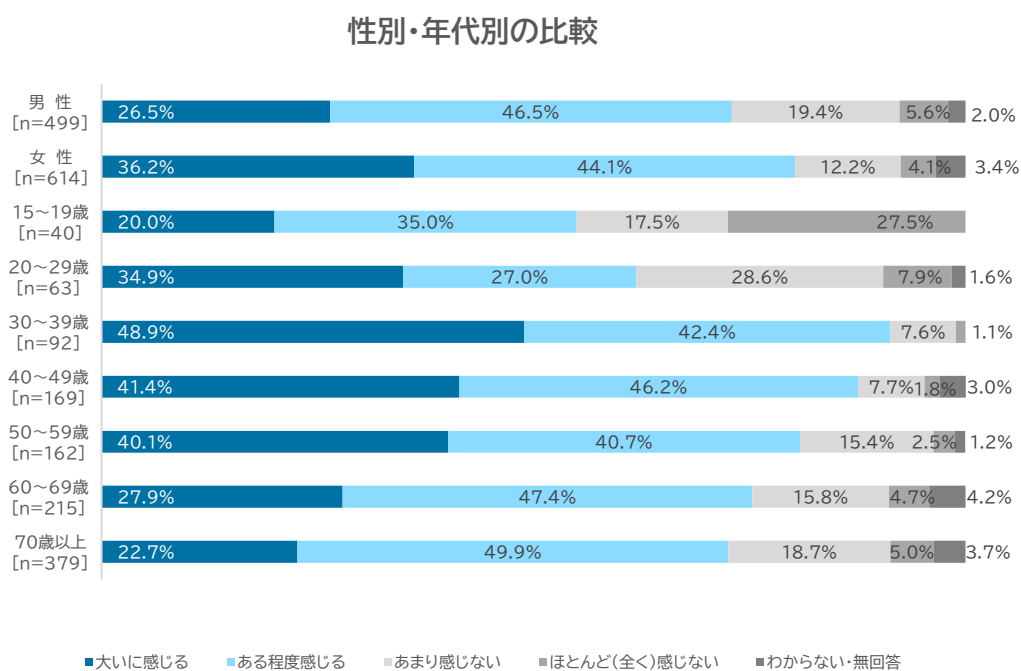
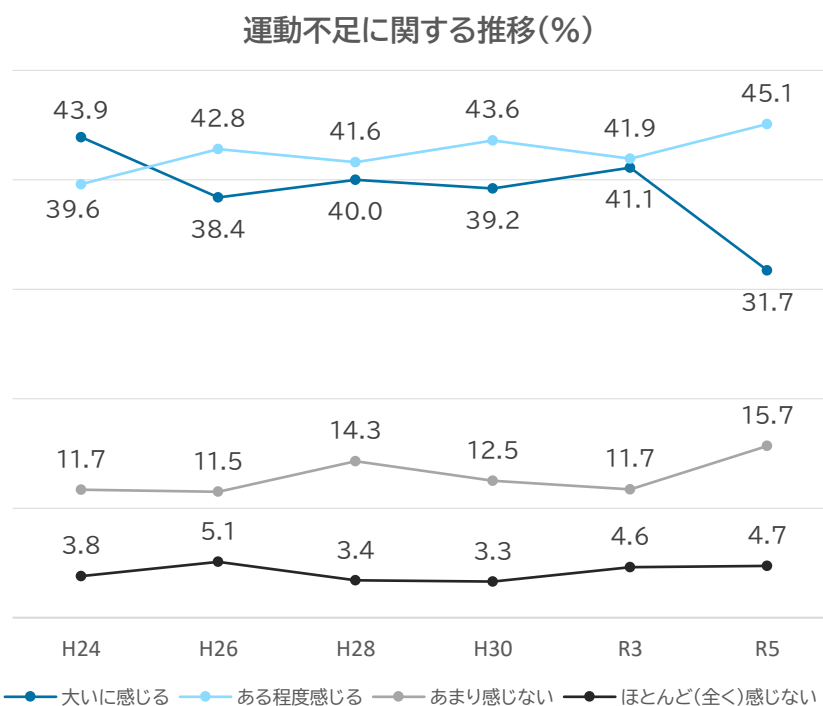
自分の体力についてどのように感じているか尋ねたところ、
運動頻度が高いほど「体力に自信がある」とする割合が高い傾向にあった。



4 運動不足

普段、運動不足を感じるかについて尋ねたところ、経年比較で見ると、「大いに感じる」は、低下傾向にあり、「あまり感じない」は増加傾向にあった。

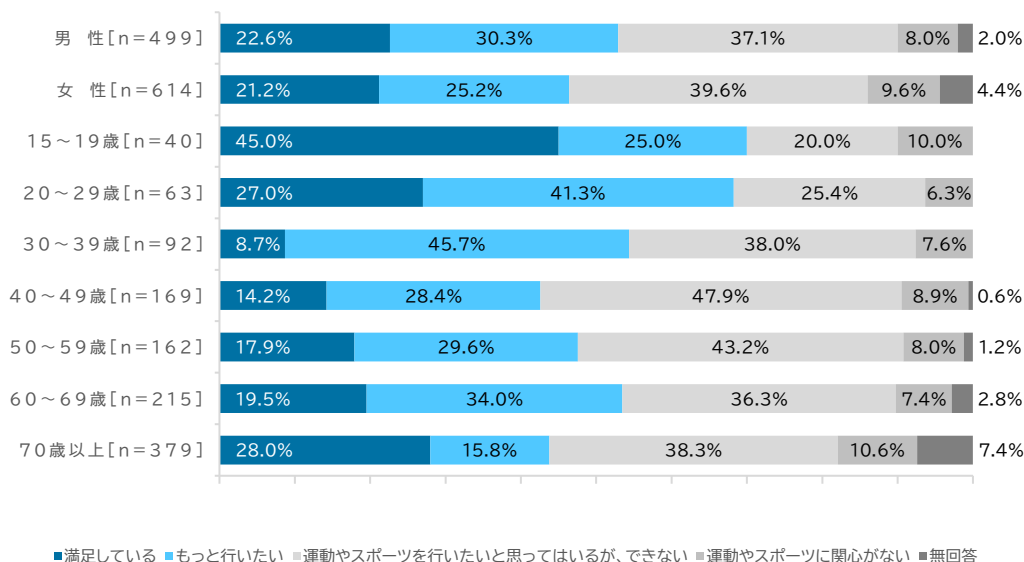
年代別に見ると、30代～40代で運動不足を「感じる」とする割合が高い傾向にあった。



5 運動・スポーツ実施状況に対する満足度

現在の運動・スポーツ実施状況に対する満足度について尋ねたところ、年代別に見ると、もっとやりたいと思っている割合は、20代(41.3%)、30代(45.7%)の割合が高かった。

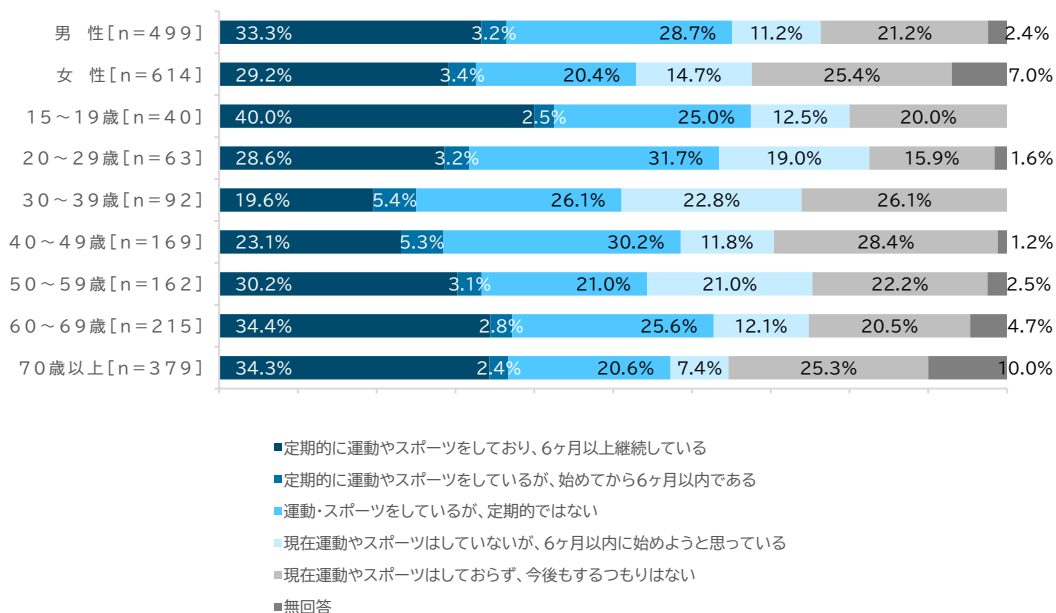
性別・年代別の比較



6 運動・スポーツの今後の実施予定

運動・スポーツについて、実施状況と今後の予定について尋ねたところ、年代別に見ると、6ヶ月以上継続している割合は、30代(19.6%)が一番低く、次に40代(23.1%)が低かった。

性別・年代別の比較



7 運動習慣を身につけるために必要なこと

運動習慣を身につけるために必要なことについて尋ねたところ(複数回答可)、
「もっと行いたい」と考えている人は、運動習慣を身につけるために「日常生活での運動時間の確保」「一緒に運動する仲間」を必要としている割合が高かった。
「現在運動やスポーツはしていないが、6ヶ月以内に始めようと思っている」人は、運動習慣を身につけるために「自身の意識変化」を必要としている割合が高かった。

運動・スポーツ実施状況に対する満足度(%)

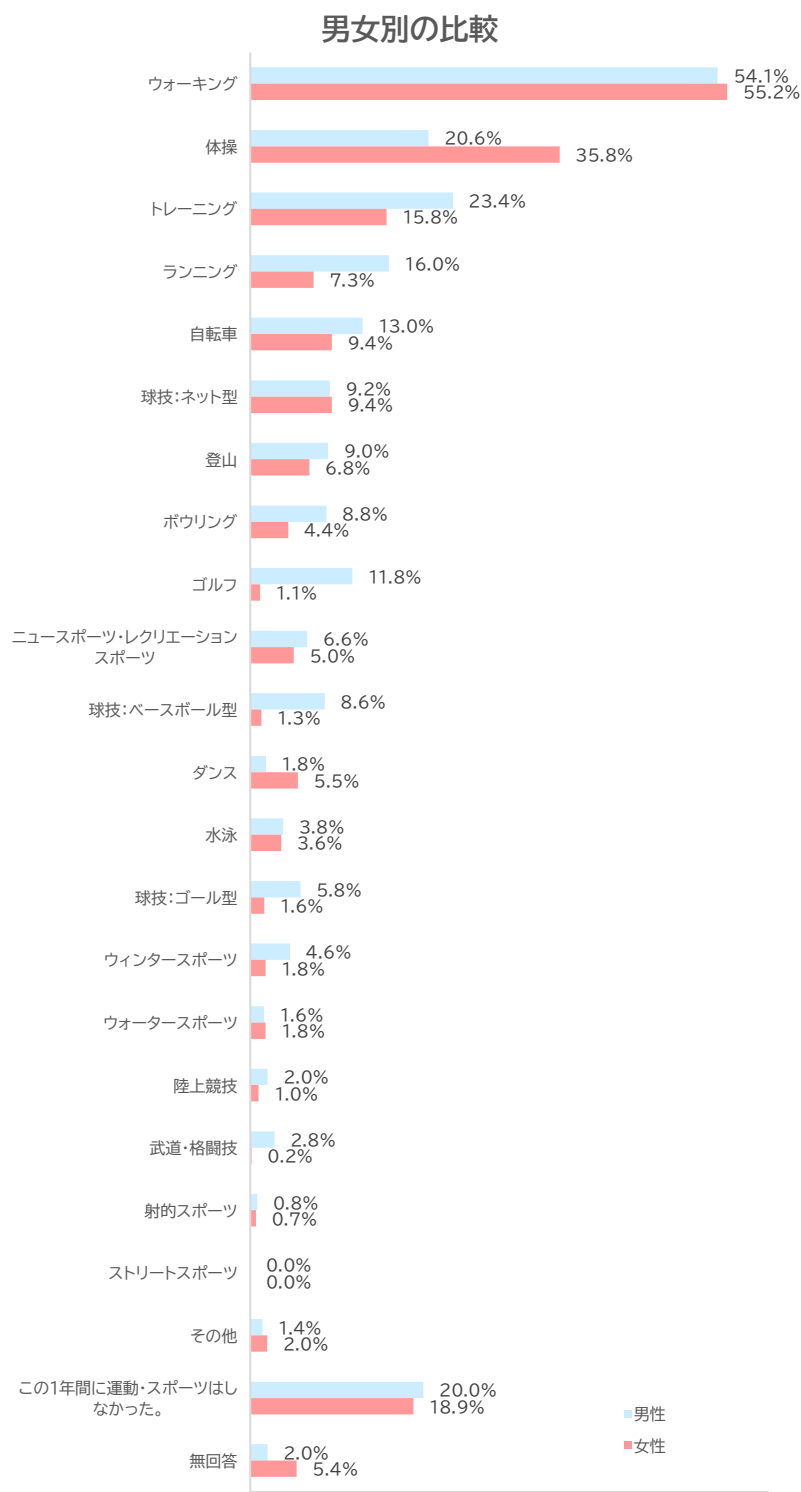
	満足している	もっと行いたい	運動やスポーツを行いたいと思っ てはいるが、でき ない	運動やスポーツに 関心がない
運動ができる健康な身体	59.0	35.7	40.1	25.3
一緒に運動する仲間	50.0	45.8	37.8	24.2
日常生活での運動時間の確保	34.4	48.1	38.2	22.2
自身の意識変化	30.3	37.7	40.1	47.5
生活習慣の改善	23.0	28.9	30.6	25.3
家族や友達の支えや理解	25.8	29.2	23.5	7.1
運動ができる施設の充実	28.3	31.5	17.7	8.1
資金的な余裕	13.5	21.8	21.2	12.1
明確な目標の設定	17.6	20.8	16.4	11.1
スポーツ教室やレッスンの充実	13.5	14.3	7.6	3.0
運動ができる用具・装具の充実	8.6	10.7	6.9	2.0
運動するメリットや知識の理解	10.7	8.8	5.8	2.0
指導者の充実	9.8	7.1	4.1	4.0
職場の支えや理解	1.6	6.8	3.0	2.0
施設までの送迎	4.9	2.6	3.2	4.0
身につける必要があると思わない	0.4	0.0	0.5	8.1
その他	0.8	2.6	1.6	1.0
わからない	1.6	0.0	0.9	7.1
無回答	0.0	1.9	2.5	7.1

運動・スポーツの今後の実施予定(%)

	定期的に運 動やスポー ツをしており、 6ヶ月以上継 続している	定期的に運 動やスポー ツをしてい るが、始めて から6ヶ月以 内である	運動・スポー ツをしている が、定期的で はない	現在運動やス ポーツはして いないが、6 ヶ月以内に始 めようと思っ ている	現在運動やス ポーツはして おらず、今後 もするつもり はない
運動ができる健康な身体	55.5	45.9	40.8	32.9	30.1
一緒に運動する仲間	49.1	37.8	41.5	39.0	33.1
日常生活での運動時間の確保	40.8	35.1	44.1	41.8	29.7
自身の意識変化	30.9	27.0	41.2	46.6	41.0
生活習慣の改善	24.3	16.2	33.1	39.0	25.6
家族や友達の支えや理解	27.5	27.0	25.7	23.3	18.0
運動ができる施設の充実	32.9	21.6	25.0	19.2	12.0
資金的な余裕	17.3	16.2	19.9	21.2	18.8
明確な目標の設定	19.4	21.6	18.8	21.2	11.7
スポーツ教室やレッスンの充実	15.3	16.2	11.4	8.2	4.5
運動ができる用具・装具の充実	10.1	2.7	9.2	10.3	3.8
運動するメリットや知識の理解	12.4	16.2	4.8	4.1	4.5
指導者の充実	11.3	8.1	3.7	4.8	3.8
職場の支えや理解	2.9	2.7	4.4	4.8	4.1
施設までの送迎	6.1	2.7	2.2	0.7	2.6
身につける必要があると思わない	0.3	0.0	0.7	0.0	3.0
その他	1.2	2.7	3.3	0.7	1.1
わからない	0.3	0.0	0.4	0.0	4.9
無回答	1.2	2.7	1.5	1.4	4.1

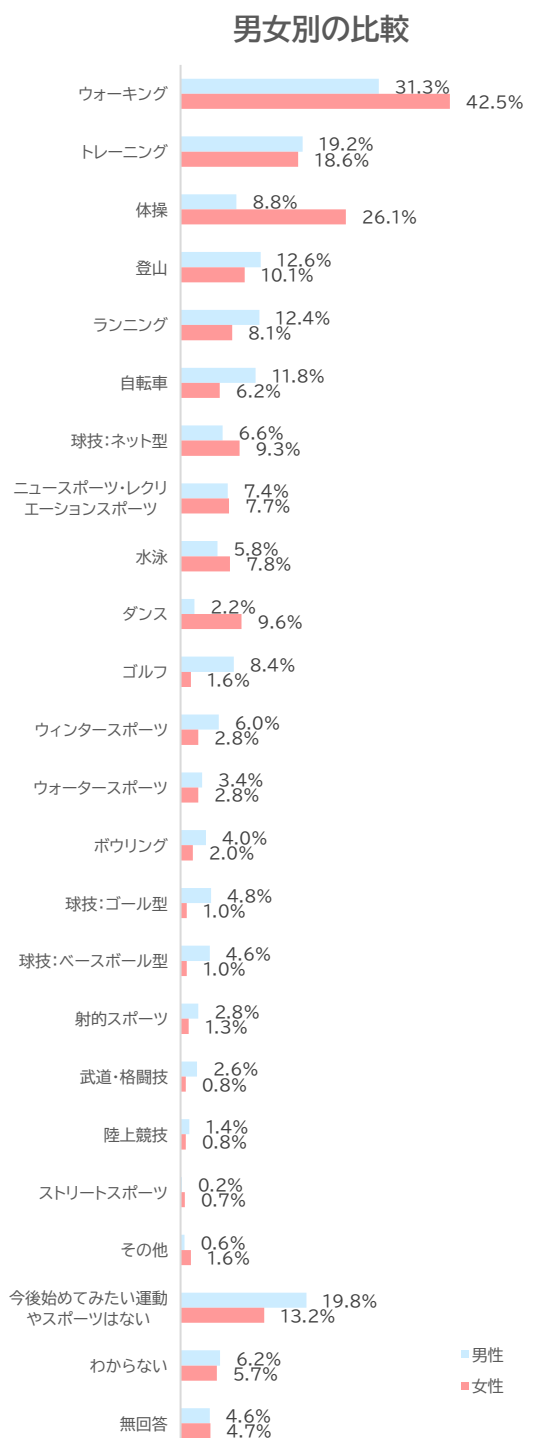
8 この1年間に行った運動・スポーツ

この1年間に行った運動・スポーツについて尋ねたところ(複数回答可)、「ウォーキング」が男女共最も高い。性別に見ると、「トレーニング」・「ランニング」は男性の割合が高く、「体操(ヨガ・エアロビクス含む)」は女性の割合が高かった。



9 今後始めてみたい運動・スポーツ

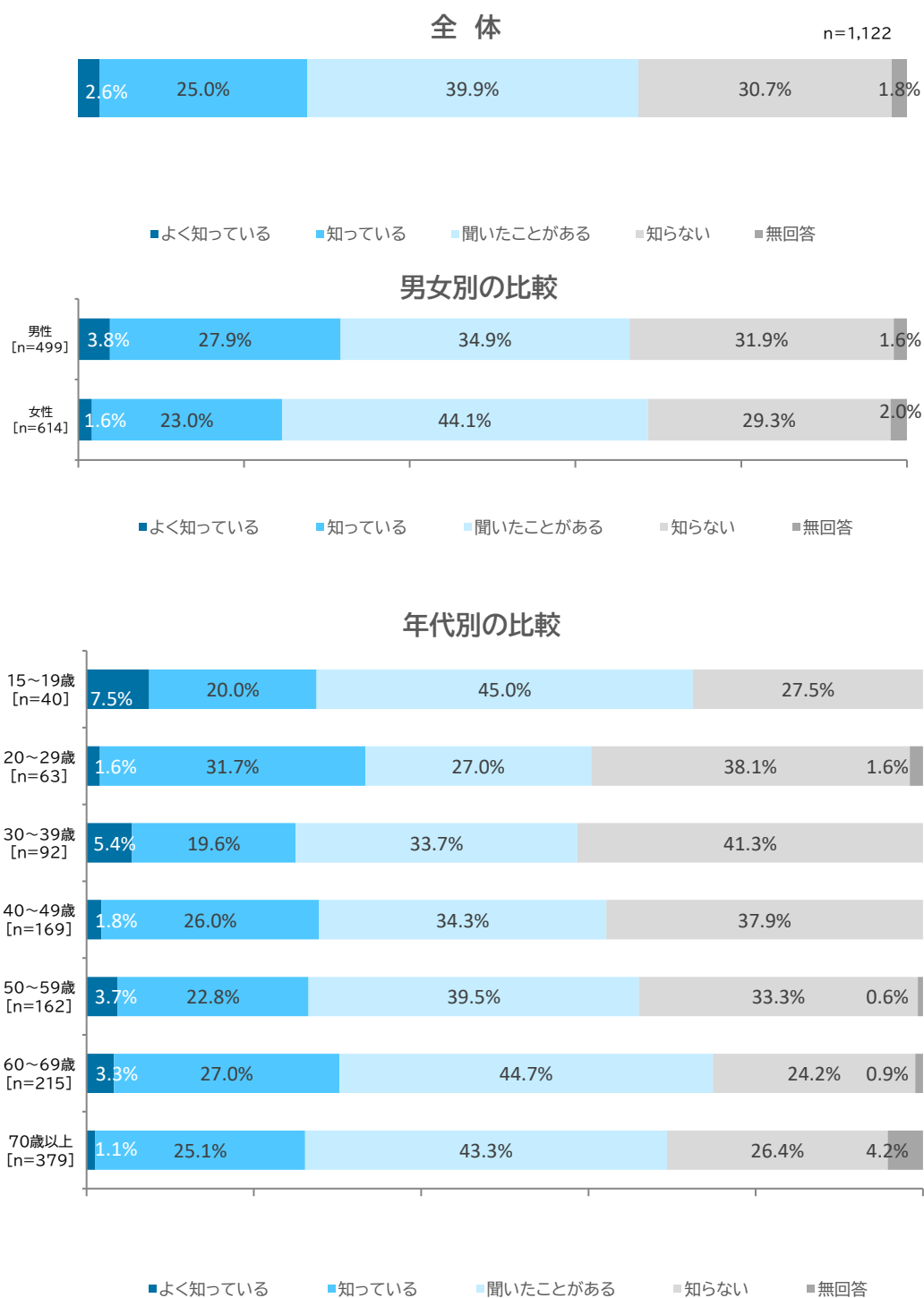
今後始めてみたい運動・スポーツについて尋ねたところ(複数回答可)、性別に見ると、男性・女性とも「ウォーキング」が最も高く、次に男性は「トレーニング」「登山」、女性は「体操(ヨガ・エアロビクス含む)」「トレーニング」となっている。



10 「FUKUIRAYS」の認知度

「ふくい県民応援チーム FUKUIRAYS(フクイレイズ)」について尋ねたところ、年代別に見ると、「よく知っている」+「知っている」の計は 20 代(33.3%)で最も高く、次いで 60 代(30.3%)が高かった。

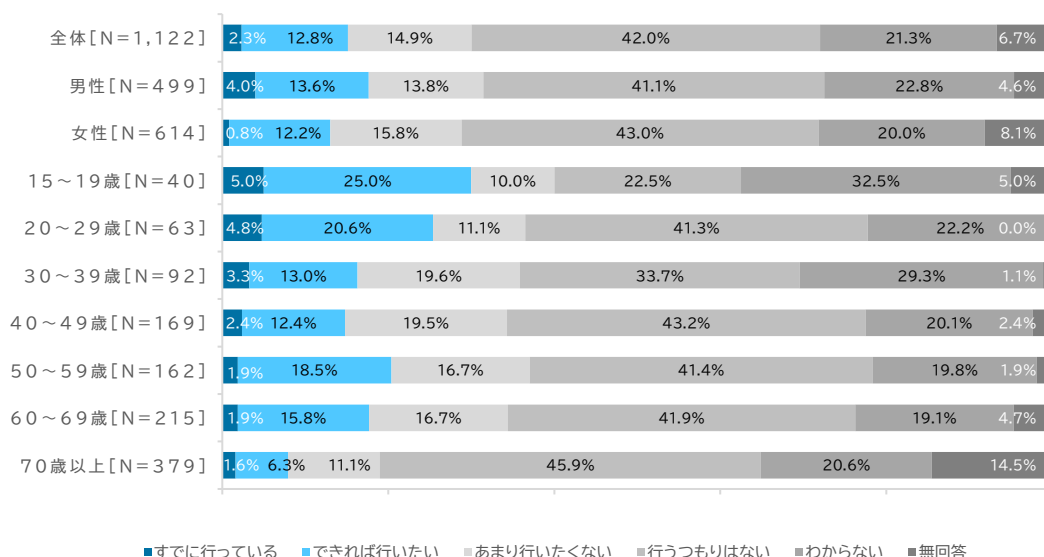
一方、「知らない」は 30 代(41.3%)の割合が最も高かった。



11 ボランティア活動について

スポーツの指導やイベントへの協力など、スポーツに関するボランティア活動について尋ねたところ、全体で見ると、「すでに行っている」+「できれば行いたい」の計は 15.1%に対して、「あまり行いたくない」+「行うつもりはない」の計は 56.9%であった。

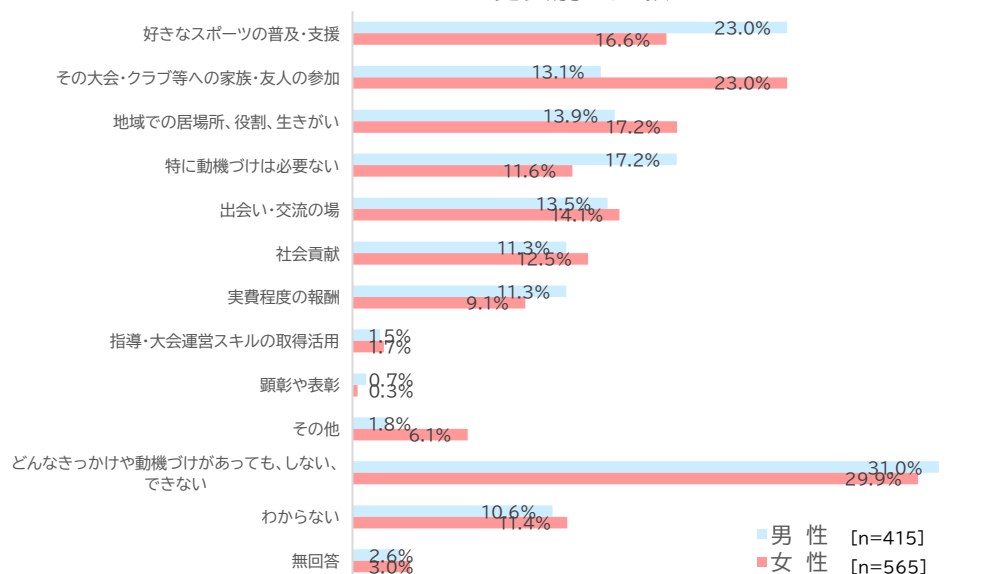
全体・性別・年代別の比較



12 ボランティア活動のきっかけ

「11」で「あまり行いたくない」「行うつもりはない」と答えた方にスポーツに関するボランティア活動を行ったり続けたりするきっかけや動機づけについて尋ねたところ、「好きなスポーツの普及・支援」は男性の割合が高く、「その大会・クラブ等への家族・友人の参加」は女性の割合が高かった。

男女別の比較



参考資料 3 福井県スポーツ推進審議会委員名簿

(敬称略、五十音順)

氏名	所属・役職等	備考
石原 一成	福井県立大学 学術教養センター 教授	副会長
上田 俊彦	(公財) 福井県スポーツ協会 副会長	会長
笠原 理紗	ふくい移住サポーター 福井に住む県外女子チーム ZUK 前代表	
柴田 美幸	福井県高等学校体育連盟会長推薦 福井県高等学校体育連盟 常務理事 福井県立武生商工高等学校 教諭	
白木 久子	福井県小学校教育研究会体育研究部会長推薦 勝山市立平泉寺小学校 校長	
鈴村 弥生	福井県中学校体育連盟会長推薦 福井市棗中学校 教頭	
辻岡 世紀子	福井県レクリエーション協会 理事	
西島 美保子	障がい者スポーツアスリート (東京パラリンピック視覚障害マラソン女子 8 位入賞)	
林 晃司	坂井市教育委員会 教育長	
平井 一芳	福井県立大学 看護福祉学部 教授 日本健康運動指導士会 福井県支部長	
藤原 直幸	(一社) 日本スポーツツーリズム推進機構 地域スポーツ戦略ディレクター	
森山 修	日本ローイング協会業務執行理事 強化戦略ディレクター 兼強化委員長 関西電力株式会社 ボート部総監督	
山本 光子	総合型地域スポーツクラブ福井県連絡協議会 副会長 清水スポーツクラブ 会長	
湯本 眞士	株式会社福井ブローウィングズ 代表取締役	
和田 清美	福井県スポーツ少年団 常任委員	

参考資料4 計画策定までの経緯

時期	主な経過	内容
令和6(2024)年 5月27日	第18回 福井県スポーツ推進審議会	・次期計画の名称、期間、位置づけ、策定趣旨 スケジュール、スポーツの捉え方 ・現計画の主な施策・現状と課題 ・次期計画の方向性 ・意見交換
10月30日	第19回 福井県スポーツ推進審議会	・次期計画の基本理念 ・骨子案 ・基本施策案 ・現場でトーク結果 ・意見交換
12月2日 ～ 12月24日	福井県議会 令和6年12月議会	・骨子案について説明
12月20日	市町スポーツ行政担当者 連絡会議	・骨子案について説明 ・スポーツ行政担当者と意見交換
令和7(2025)年 1月30日	第20回 福井県スポーツ推進審議会	・本文案 ・意見交換
2月17日 ～ 3月14日	福井県議会 令和7年2月議会	・本文案について説明
2月17日 ～ 3月3日	パブリックコメント	・計画案を県ホームページに公表し、 意見を募集
3月下旬	第21回 福井県スポーツ推進審議会	・計画案の報告 ・意見交換
3月下旬	計画決定・公表	

○ 現場でトーク（意見交換会）の実施

- ・実施期間：5月～12月
- ・実施回数：80回
- ・参加人数：651名

※スポーツ関係団体や県民を対象に幅広く意見交換会を実施